

年 報 19

2002年度
(平成14年度)

2003. 9

山梨県埋蔵文化財センター

年 報 19

2002年度
(平成14年度)

2003. 9

山梨県埋蔵文化財センター

序

昨年の秋9月、山梨県埋蔵文化財センター20周年記念行事「縄文トーク2002 in 山梨」が県民文化ホールで、600名を超える参加者の中、開催されました。私もゲストという立場で参加させていただきましたが、俳優の苅谷俊介さんの講演では、優れた造形の縄文土器や縄文人の生活について熱く語っていただきました。女優の竹下景子さんを加えてのパネルディスカッションでも、大塚初重前所長の司会で楽しく、個性的なトークを繰り広げていただき、多くの県民の方々に魅了したのではないかと思います。また、創立20周年記念展示会「the Jomon」では、山梨が世界に誇る文化遺産である縄文土器150個体を県民情報プラザに展示し、その素晴らしさを再認識する機会になったと考えています。そして、縄文土器の魅力とそれを取り巻く当時の人々の様子を感知することの価値を、広く県民にアピールできたことと思います。

さて、2002年度の発掘調査では、例年の通り多くの貴重な資料を発見することができました。

甲府城下町遺跡では、江戸時代の陶磁器、井戸の跡、埋壺・埋桶（トイレ遺構）などの発見で、当時の武士の暮らしや甲府の様子がより解明されると期待されています。甲府城では、稲荷櫓台の修復が完了し、県民からは、櫓本体の完成が待ち遠しく感じられるという声が聞かれます。大木戸遺跡では、古墳・平安時代の住居跡、溝、縄文時代の土器捨て場に利用された谷が検出されました。谷は、1998年度に調査された集落跡と同時期のもので、集落跡と土器捨て場のセット関係が確認されています。宮の前遺跡では、縄文中期末から後期にかけての手鏡の形に石を敷き詰めた柄鏡形敷石住居や配石遺構が確認され、桂川流域の当時の状況がより鮮明になると思われます。猷沢河岸跡においては、2001年度も出土して話題になった江戸時代の甲州金一分判が、2002年度も出土しました。火災による焼土・炭化物が広がる層も検出され、文政4年の御米蔵を全焼させた大火に関係する可能性が想定されています。

また、2000年度に発足した資料普及課は、2002年度で3年目を迎え、調査資料の整理・報告書作成、遺跡発表会、遺跡展、教育普及活動、収蔵庫の整理・管理を中心に活動しました。学校への教育普及活動は、小中学校における「総合的な学習の時間」の実施に伴い、出前授業、職場体験学習など2001年度よりも9件多い、21件の依頼を受けました。出前授業は、「土器作り」「火起こし」「縄文食作り」等が実施され、中には「堅穴住居作り」に挑戦した学校もあり、保護者の協力のもと、それぞれにすばらしいものが完成しました。また、昨年度多かった中学生の職場体験学習では、「土器の復元・実測」「拓本作業」などを短い時間ではありましたが、生徒達に貴重な体験をしていただくことができました。これらの事業は、本年度以降さらに増加すると思われまますので、受け入れ態勢の整備をより一層図っていきたく考えております。

山梨県埋蔵文化財センターは、昨年で20周年を迎えましたが、引き続き埋蔵文化財の保護や調査・研究・啓蒙普及活動などの役割を推進してまいりますと共に、新たな20年に向かい更に邁進していきたく考えています。これからも一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2003年9月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 渡 辺 誠

目 次

I	2002年度の事業概要	
1	発掘調査	1
2	整理作業	1
3	資料普及課の事業	2
4	収蔵資料の貸し出し及び掲載許可	4
5	所内研究グループ	8
6	第15回市町村埋蔵文化財専門職員研修会	9
7	山梨県埋蔵文化財センター創立20周年記念事業	9
8	遺跡調査発表会	10
9	山梨の遺跡展2002	11
10	所内研修	11
11	寄贈・購入図書	12
II	各遺跡の発掘調査概要	
1	鮎沢河岸跡A・B	13
2	原町農業高校前遺跡	17
3	大木戸遺跡	19
4	藤田池遺跡	21
5	宮の前遺跡	23
6	中沢遺跡・武家遺跡	25
7	當代遺跡・大ネギ遺跡	27
8	埋蔵銭貨出土遺跡群詳細分布調査	29
9	寺部村附第9・中西第3遺跡	31
10	甲府城下町遺跡	33
11	甲府城跡	35
12	八ヶ岳東南麓遺跡群ほか遺跡分布調査	37
III	県内の概況	
1	発掘調査	51
2	県指定文化財	51
3	調査体制	51
	山梨県埋蔵文化財発掘調査件数の推移(グラフ)・2002年度発掘調査一覧表	52

I 2002年度の事業概要

1. 発掘調査

2002年度は10遺跡の発掘調査と、24事業に関わる試掘調査・立ち会い調査、1つの分布調査を行った。発掘調査の原因は、道路建設5、建物建設4、史跡整備1となる。これらの調査は4月上旬から3月下旬まで行われ、主として12月以降を基礎的整理期間とした。各遺跡の概要は、第II章で述べることにする。

番号	遺跡名他	番号	遺跡名他
1	殿沢河岸跡A・B	2	當代遺跡・大ネギ遺跡
3	中沢遺跡・武家遺跡	4	藤田池遺跡
5	宮の前遺跡	6	甲府城跡〔県指定史跡〕
7	寺部村第9・中西第3遺跡	8	甲府城下町遺跡
9	大木戸遺跡	10	埋蔵銭貨出土遺跡群詳細分布調査
11	原町農業高校前遺跡		

・八ヶ岳東南麓遺跡群ほか遺跡分布調査

番号	遺跡名他	番号	遺跡名他
12-01	北杜高校内弓道場・投球練習場建設工事に伴う試掘調査	12-02	山梨県立博物館(仮称)建設事業に伴う試掘調査
12-03	日川高校仮設校舎建設工事に伴う試掘調査	12-04	新環状・西関東道路建設工事に伴う試掘調査(寺部)
12-05	あけぼの医療福祉センター再整備建設工事に伴う試掘調査	12-06	甲府地方裁判所改築工事に伴う試掘調査
12-07	新環状・西関東道路建設工事に伴う試掘調査(中川田)	12-08	都留警察署職員待機宿舎建設工事に伴う試掘調査
12-09	大野茶屋渡岸工事に伴う試掘調査(1次)	12-10	新環状・西関東道路建設工事に伴う試掘調査(足原田)
12-11	西関東連絡道路建設工事に伴う試掘調査	12-12	新環状道路建設工事に伴う試掘調査(小井川)
12-13	新環状道路建設工事に伴う試掘調査(中川)	12-14	国道137号河口2期バイパス建設工事に伴う試掘調査
12-15	塩前蔵遺跡公園整備に伴う試掘調査	12-16	大野茶屋渡岸工事に伴う試掘調査(2次)
12-17	山梨県酪農試験場内堆肥館建設工事に伴う試掘調査	13-01	県庁構内改良工事に伴う立ち会い調査
13-02	砂防堰堤建設工事に伴う立ち会い調査	13-03	西関東道路工事に伴う仮橋建設工事に伴う立ち会い調査
13-04	整理用プレハブ設置工事(基礎)に伴う立ち会い調査	13-05	甲府市中央郵便局増築工事に伴う立ち会い調査
13-06	甲府駅北口乗車員駐車場外周部他改修工事・武田通り拡幅工事に伴う立ち会い調査	13-07	青い鳥老人ホーム建設工事に伴う立ち会い調査

2. 整理作業

整理作業は、主に2002年度調査した遺跡の基礎的整理作業と本格的整理作業及び報告書作成を以下のとおり行った。

1) 基礎的整理作業

2) 本格的整理作業

3) 報告書作成作業

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	殿沢河岸跡A・B	1	百々遺跡2・4	1	大木戸遺跡
2	寺部村第9・中西第3遺跡	2	百々遺跡3・5	2	北河原遺跡・野牛島大塚遺跡
3	甲府城跡〔県指定史跡〕	3	酒呑場遺跡	3	道々芽木遺跡
4	甲府城下町遺跡	4	原町農業高校前遺跡	4	藤田池遺跡
5	埋蔵銭貨出土遺跡群詳細分布調査	5	日向町第2遺跡	5	酒呑場遺跡
		6	中沢遺跡・武家遺跡	6	宮の前遺跡
				7	當代遺跡・大ネギ遺跡
				8	甲府城跡〔県指定史跡〕

3. 資料普及課の事業

2000年度に新設された資料普及課は、2002年度で3年目を迎え、1課2担当、課長以下9名で構成されている。主な事業は、調査資料の整理及び報告書作成、遺跡発表会、遺跡展、学校教育、生涯学習に対応した教育普及活動、収蔵庫の整理・管理などがある。学校等への教育普及活動は、出土品の活用を推進するという埋蔵文化財行政の課題や、小中学校における「総合的な学習の時間」の実施の取り組みにより、主に出前授業、職場体験など学校側からの依頼を受け対応している。また、遺跡概説書作成が2年計画で2001年度より行われており、2002年度は3地域について作成した。

出前授業は、2001年度同様、学校等からの依頼に基づき講師派遣の形態をとり、2002年度は主に土器づくり、火起こし、縄文食づくり等の体験学習が実施されている。また、小規模校ではありながら、竪穴住居づくりにチャレンジした学校もあり、父兄等の協力を得るなどし、見事に完成した学校もみられた。2002年度の傾向として多かったのが、中学生による職場体験があげられる。内容は、主に室内による整理作業を中心に計画して行った。生徒達は短い時間の中であったものの土器の復元や実測、拓本作業などを体験した。前述した出前授業や体験学習など、2002年度において21件の依頼があり、2001年度に比べ9件多い状況であった。2003年度以降、学校側からの依頼がさらに増えることが予想され、受け入れ態勢や対応等のようにしていくか課題が残る。

遺跡概説書は「身近な古代を調べようーワークシート概説書ー」と題して2001年度から2年計画で、県内各地域ごとの遺跡を、遺構・遺物の写真により紹介し、本書をきっかけとして埋蔵文化財にふれあう中で、身近にある先祖の遺跡や遺物を知ることで、地域の歴史や文化により高い関心をもってもらうと、小中学校を始めとする県内教育関係機関へ配布するものであり、2001年度は、北巨摩郡、中巨摩郡、甲府地域、2002年度は、東山梨地域、東八代郡、郡内地域について作成した。

収蔵庫の整理・管理は、2001年度より報告書作成が終了した遺跡の遺物について収蔵庫内へ遺跡ごと報告書掲載順にプラ箱に整理し、収納場所を随時検索可能とするため、管理データベース化を図っている。



竪穴住居づくり（増穂西小学校）



土器づくり（相川小学校）



古墳の実測（駿台甲府中学校）



職場体験（笛南中学校）

1. 出前授業一覧

番号	学校名 (所在地)	活動の種類	日 程 時 間	対象児童・生徒数	職員数	学 習 内 容	土曜上野公園内実施		火起こし方法	
							形態	施設		大打ち
1	大塚小学校 (大月市)	総合学習	4月23日 2.0時間 全6年生 (1クラス) 18名	3名	土鑄づくり					
		5月 1日 2.0時間 全6年生 (1クラス) 18名	2名	土鑄づくり						
		履 歴	砂と粘土の割合に両端がかってしまっている。一部の生徒において文種付けの時間が足りないうちで終わった。							
		履 歴	文種や装飾部分が破損。欠損するなどのケースが見られた。							
2	玉富小学校 (塩田町)	総合学習	7月 8日 15.0時間 全6年生 (1クラス) 6名	1名	火起こし・道具作り (石斧)・土鑄					
		履 歴	縄文時代の生活の様子についての講義後、グループごとテーマ別 (火起こし、道具作り (石斧)、布を織む) に分かれておこなった。							
3	日本道路公園 東京建設局	総合学習	6月22日 1.0時間 全6年生 41名	3名	土鑄づくり体験					
		6月23日 1.0時間 全6年生 41名	3名	土鑄づくり体験						
		履 歴	道路公園東京支局では「高層建物の建設と歴史文化財」と題したイベントが開催され、土鑄では中部横断道建設に伴い発掘調査された百々連跡の遺物やパネル展示など、約1-2時まで行われた。また、体験会としても別は、土鑄作りが盛んになり、見学体験会も盛んに行われていた。							
4	増穂西小学校 (増穂町)	総合学習	9月16日 1.0日 全6年生 (1クラス) 4名	1名	午前：土鑄づくり、午後：石鑄づくり					
		11月28日 1.0日 全6年生 (1クラス) 4名	2名	飯伏土鑄づくり						
		履 歴	12月18日 1.0日 全6年生 (1クラス) 4名							
		履 歴	石鑄づくりについては、石皿・石皿などの作品に挑戦した。							
		履 歴	飯伏土鑄づくりについては、町有林からヒノキを生産道が伐採し調達。キャは地域住民による提供など、意欲的な人々の協力があつた。							
5	神原中学校 (昭和町)	総合学習	9月12日 1.5時間 2年生 (選択社会) 11名	1名	縄文土鑄づくり					
		9月12日 1.5時間 2年生 (選択社会) 11名	1名	縄文土鑄づくり						
		履 歴	粘土と砂を事前に混ぜ合わせてあったため、比較的短時間で作品できた。							
6	山梨大学 越中高等学校 (甲府市)	総合学習	10月16日 0.5時間 全5年生114名	1名	土鑄づくりに向けた講義					
		10月29日 2.0時間 全5年生114名	7名	縄文土鑄づくり						
		履 歴	11月12日 3.0時間 全5年生114名							
		履 歴	11月19日 3.0時間 全5年生114名							
		履 歴	11月19日 3.0時間 全5年生114名							
		履 歴	縄文土鑄づくり (ろう) - 火の利用と実用と題して全20時間のカリキュラムが組まれており、上記の4項目の授業において縄文文化財センター職員が要出向して指導を行った。子供達にとって、土鑄づくりより、食べ物調理に興味があつた。							
7	増川小学校 (甲府市)	総合学習	10月22日 1.0時間 全6年生34名	1名	粘土調剤の仕方や縄文土鑄づくりの講義					
		11月22日 1.5時間 全6年生34名	2名	生徒個人が選んできた粘土の判定						
		履 歴	12月24日 3.0時間 全6年生34名							
		履 歴	1月24日 3.0時間 全6年生34名							
		履 歴	1月24日 3.0時間 全6年生34名							
		履 歴	増川小学校では、良好な粘土が採取できることから、生徒個人により粘土を準備することからはじめた。縄文土は、各段で調べた縄文土理 (縄文土理クッキー・団子スープ) を土鑄機と石鑄機で行い調理後に実食。							
8	百田小学校 (東アルプス市) (旧白根町)	地域学習	11月6日 1.0時間 社会科地域学習研究会8名	1名	百々連跡について					
		履 歴	実地調査で明らかにされた百々連跡の様子から、南アルプス市 (旧白根町) 百々地区の古代の様子について学習した。							
9	戦台甲府中学校 (甲府市)	総合学習	12月16日 2.0時間 1年生56名	1名	火起こし					
		12月19日 2.0時間 1年生56名	1名	土鑄機						
		履 歴	職員1名であったため、対応に苦慮する状況があつた。							
10	北条中学校 (甲府市)	総合学習	2月16日 1.0時間 1年生 (4クラス) 135名	1名	「甲府城の歴史について」					
		履 歴	地域の歴史についての学習会として、県史跡「甲府城跡」の歴史を学ぶ。							

2. 職場体験・体験学習一覧

番号	学校名 (所在地)	活動の種類	日 程 時 間	対象児童・生徒数	職員数	学 習 内 容
1	大塚小学校 (三島町)	校外学習	6月13日 1.0時間 6年生18名	1名	職場見学・業務内容の説明。	
2	北中学校 (甲府市)	職場体験	7月10日 1.0時間 4名	1名	原古整理室において業務内容の説明、縄文土鑄の融合 (御前農高高校前遺跡)。	
3	戦台甲府中学校 (甲府市)	体験学習	7月12日 2.0時間 1年生77名 (3クラス)	4名	古物の実用と日用雑用器具の活用、新道具を使用するなど、調査方法を学ぶ実習。(土鑄器・若水遺跡の円形灰皿等)	
4	南南中学校 (中道町)	職場体験	7月20日 1.0時間 1年生3名	1名	職場・施設見学、遺物の紹介、拓本作業・前面実習・トレス作業などを体験。(日向町遺跡、東野遺跡高校前遺跡)	
5	御前農高 教育委員会	体験学習	8月 1日 2.0時間 小学校高学年25名	2名	縄文・弥生時代の衣食住についての講義の後、火起こし体験、火起こしと併行し、粘土土鑄を使用した糸糸の炊飯実験を行った。	
6	甲府中学校 (南アルプス市) (旧甲西町)	職場体験	8月 1日 2.0時間 1年生3名	1名	職場・施設見学、縄文土鑄の拓本・前面実習 (花鳥山遺跡)。平安時代の土鑄の実習 (実習機使用)・トレス作業 (百々連跡)。	
7	東洋中学校 (東栗町)	職場体験	8月 6日 3.0時間 2年生1名	1名	職場・施設見学、遺物の紹介、拓本・前面実習 (御前農高高校前遺跡)。 遺物実習 (実習機使用)・トレス作業 (日向町遺跡)。	
8	神原中学校 (昭和町)	職場体験	8月 6日 7.0時間 3年生6名	1名	原古整理室において業務内容の説明、縄文土鑄融合 (御前農高高校前遺跡)。	
9	山梨英和中学校 (甲府市)	職場体験	10月16-17日 7.0時間 3年生2名	2名	職場・施設見学、縄文土鑄の融合等 (大木戸遺跡)。	
10	増川中学校 (八代町)	職場体験	11月14日 1.0時間 2年生1名	2名	職場・施設見学、縄文土鑄の融合等 (大木戸遺跡)。	
11	百田小学校 (甲府市)	職場体験	11月25日 3.0時間 1年生4名	1名	職場・施設見学、主に生徒からの質問を中心に、縄文土鑄・古銭等の拓本作業。	

3. 道具貸出許可一覧

番号	申請校	貸出期間	日 程	利 用 目 的
1	東八代郡社会教育推進協議会	5月10日	火起こし道具 (大打ち6点、大打ち石5点)	東八代郡考古学出張教室 (八代小学校)
2	東八代郡社会教育推進協議会	5月11日	火起こし道具 (大打ち6点、大打ち石5点)	御前ふるさと子供まつり (御前花鳥山スポーツ広場)
		5月11日	火起こし道具 (大打ち6点、大打ち石5点)	
3	増穂西小学校 (増穂町)	10月1日	拓本機・拓石	総合学習
4	新田町教育委員会	10月18日	火起こし道具 (大打ち6点、大打ち石5点)	御前ふるさと子供まつり (御前花鳥山スポーツ広場)
		10月18日	火起こし道具 (大打ち6点、大打ち石5点)	
5	戦台甲府中学校 (甲府市)	11月15日	火起こし道具 (大打ち6点、大打ち石5点、火起こし)	実験学習の教材

番号	貸出期間	申請許可物件名	申請者	利用目的	
		酒井場遺跡出土 ＊ 豆塚遺跡出土 柳坪遺跡出土 宿尻遺跡出土 北原遺跡出土 国分遺跡出土 甲ヶ原遺跡出土	飯倉形石製品1点 貝輪形土製品1点 瘤字形石製品1点 深鉢形土器(縄文)1点 深鉢形土器(縄文)2点 深鉢形土器(縄文)1点 深鉢形土器(縄文)1点 深鉢形土器(縄文)1点		
9	5. 29～6. 19	上の字遺跡出土 ＊ 東山北遺跡出土 米倉山北遺跡出土	ナイフ(旧石器)2点 コア(旧石器)1点 ナイフ(旧石器)1点 ナイフ(旧石器)4点	昭和町立押原中学校	社会科の授業で使用するため
10	7. 16～9. 27	横針堂久保遺跡出土 ＊	扇形燧石片(旧石器)1点 ナイフ(旧石器)2点	笠原野古墳文化資料館	第35回全国展「最古の磨製石器—岩宿時代I期の斧形石器の謎—」
11	8. 23～8. 25	埴部遺跡出土	焼夷弾1点	山梨県戦守遺跡ネットワーク	第6回全国戦守遺跡保存シンポジウムで展示するため
12	9. 11～9. 15	甲ヶ原遺跡出土 上の平遺跡出土 金の尾遺跡出土 ＊	深鉢形土器(縄文)1点 壺形土器(弥生)1点 ナイフ土器(弥生)1点 土器破片9点	赤立身延高等学校	地理・歴史科「日本史B」の授業で使用するため
13	10. 12～12. 10	庭部遺跡出土 ＊ 奥山北遺跡出土 ＊ 狐原遺跡出土 金峰山頂遺跡出土 ＊ 道々芋水遺跡出土 豆塚遺跡出土 ＊ 百々遺跡出土	器台ほか(土師器)5点 陶甕6点 壺ほか(土師器)7点 鉄製鎌1点 土製勾玉3点 漆器土器3点 土馬1点 藤仏1点 土馬1点 土馬1点 土俵1点 陶甕2点	豊富村教育委員会 (豊富村郷土資料館)	秋季企画展「甲斐そして豊富の馬の文化」に展示するため
14	10. 18～11. 20	亀甲塚古墳出土	管玉一式	小林幸子	エックス線写真撮影で穿孔方法を確認するため
15	10. 7～10. 24	甲ヶ原遺跡出土 ＊	石皿3点 磨石3点	増穂町立増穂西小学校	総合学習で使用するため
16	11. 28～1. 31	飯沢河岸遺跡出土 ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊	磁器(手拭き)5点 磁器(壺瓶)11点 磁器(銅板)32点 赤瓦9点 グラス皿23点 泥団子14点	釈迦堂遺跡博物館	企画展「飯沢河岸」に展示するため
17	11. 29～12. 2	酒井場遺跡出土	台形土器(縄文)5点	山梨県考古学協会	研究集会「土器から探る縄文社会」で展示するため
18	12. 20～ H15. 2. 18	中谷遺跡出土 ＊	深鉢形土器(縄文)4点 注し土器(縄文)7点 壺形土器(縄文)1点	都留市教育委員会 (都留市博物館「ミュージアム都留」)	企画展「古代の旅—ふるさとの遺風—」に展示するため
19	1. 20～3. 31	加中郡塚古墳出土	埴輪片1点	八田村教育委員会	村保管資料と地上分析による比較調査を行うため
20	3. 25～4. 25	上の平遺跡出土 宮の前遺跡出土 甲ヶ原遺跡出土 の沢遺跡出土	土鍋1点 深鉢形土器1点 深鉢形土器1点 土鍋1点(レプリカ)	朝日NHKプロモーション	「岡本太郎と縄文展」に展示のため
21	16. 1. 7～3. 26	殿林遺跡出土 一の沢遺跡出土 桑原遺跡出土 安道寺遺跡出土 安道寺遺跡出土	深鉢形土器1点(重文) 深鉢形土器1点(重文) 深鉢形土器1点 深鉢形土器1点 深鉢形土器1点	郡山市立安南館	「原始美術の華 縄文土器の造形美」に展示のため
22	4. 1～H16. 3. 31	金の尾遺跡出土 花鳥山遺跡出土	壺形土器1点 石皿10点	山梨中央銀行資料館	「貨幣史コーナー」に展示するため
23	4. 1～H16. 3. 31	横瀬遺跡出土 百々遺跡出土	土器・石器182点 土器29点	白根町教育委員会	「旧横瀬南宮古館特別展示室」に展示するため

写真資料の貸出並びに掲載許可一覧

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名	
1	4月5日	豊富村教育委員会	豊富村郷土資料館平成14年度奉迎企画展「豊富村と豊の文化」に展示のため	坂川清彦 17号墓塚の豊富 21号墓塚金堂写真	
2	4月12日	山報日新聞社	「山報の歴史を振り返る」に掲載するため	寺所遺跡 二之石遺跡 東原遺跡 園行塚遺跡 甲ヶ原遺跡 金の尾遺跡 甲府城跡 平ヶ原遺跡 上の平遺跡	まのこぼり やっこ 鉄製時鐘 小塚治遺物 津並り土器 漆塗り土器 遺跡調査風景 遺跡風景 漆彫形土器
3	4月15日	株式会社日エプロメーション	「岡本太郎と岡文策」展示図録に掲載するため	天野金遺跡 上の平遺跡	漆彫形土器 土偶
4	4月17日	株式会社 奥川吉造	「奥川日本陶磁大辞典」に掲載するため	殿林遺跡	漆彫形土器
5	5月22日	朝日新聞社出版局	「瀬内朝日百景 日本の歴史」に掲載するため	上野以遺跡 大神遺跡 釈迦堂遺跡 上の平遺跡 一の石遺跡	大祀千付漆器 漆彫形土器 土俵整合写真 方型陶器蓋群 漆鉢
6	5月24日	富沢町教育委員会	富沢町史に掲載するため	天野金遺跡	漆器
7	5月30日	大塚市教育委員会	史跡風原古墳展示館常設記念行事の展示に掲載するため	島原風原古墳	赤島元千姫神祇籠
8	6月3日	株式会社 小守能	「考古資料大観 巻2巻 弥生・古墳時代 上巻目」に掲載するため	村前東人遺跡 赤倉山B遺跡 上の平遺跡 二之石遺跡 中流遺跡 眞須遺跡 上の平遺跡 志許寺遺跡 孫寺遺跡 野原塚遺跡 豆塚遺跡 豊無遺跡 御行塚遺跡 北沢遺跡 松尾遺跡	土器一括 S字巻 大型壺3点 ヒスイ大塚（複製品） ヒスイ大塚 ヒスイ人形 のの字形土器 のの字形土器 ヤメの漆彫不製品 貝輪形土器 インシク製漆壺 加留利式土器 加留利式土器 加留利式土器 加留利式土器
9	6月4日	釈迦堂遺跡博物館	特別展「衆の民と山の民」に展示するため	一の石遺跡 孫寺遺跡 中流遺跡 眞須遺跡 上の平遺跡 志許寺遺跡 孫寺遺跡 野原塚遺跡 豆塚遺跡 豊無遺跡 御行塚遺跡 北沢遺跡 松尾遺跡	赤丸御村土器 赤丸御村土器 注し土器 有孔漆鉢 有孔漆鉢
10	6月23日	財団法人 広島市文化財団	広島市郷土資料館特別展「広島の地産～歴史と文化～」に展示するため	一の石遺跡 孫寺遺跡 中流遺跡 天野遺跡	赤丸御村土器 赤丸御村土器 注し土器 有孔漆鉢 有孔漆鉢
11	6月24日	株式会社 ジャパン通信情報センター	文化財発掘出土情報「2002年4月号」に掲載するため	甲府城下町遺跡	井戸跡
12	7月9日	朝日新聞社事務編集部	「博物館・美術館・動物園ガイド」(仮)に掲載のため	考古館遺跡 考古館遺跡 安国寺遺跡	施設内観 展示室内 有孔漆鉢土器
13	7月10日	笠懸野宮文化資料館	第35回企画展「奥古の遺物石器～青丘時代I」第1の弥生石器の類」図録に掲載するため	横所御入保遺跡	石斧 ナイフ形石器
14	7月30日	嵐山町教育委員会	嵐山町博物館 第4巻 歴史・古伝	金生遺跡	中野土偶
15	8月29日	株式会社 ライブアド	「へるをんたんトピア」常設展示に使用するため	宮の前遺跡	釣手土器
16	9月10日	八田村教育委員会	八田村文化財書（仮称）に掲載するため	大塚遺跡 石橋北塚後遺跡 立石下遺跡 伊田遺跡	9号住居 9号住居遺物出土状況 遺跡跡 出土遺物 土器 2区9号堀 7号墓塚写真 28区出土器 2区7号住居出土土器三形 金鏡 3区足跡 巻土 水田
17	9月24日	豊富村教育委員会	豊富村郷土資料館平成14年度秋期の企画展「甲斐として豊富の文化」に展示するため	坂田遺跡 東山北遺跡	方形周溝墓 弓曲土土状況 方形周溝墓 馬向土土状況 豊富土土状況
18	10月1日	株式会社 郷土出版社	「定本 富士川 釜無川・館吹川」に掲載のため	百ヶ遺跡 方力公園内 巻下遺跡	坂田遺跡 巻下遺跡 巻下遺跡
19	10月1日	株式会社 郷土出版社	「定本 富士川 釜無川・館吹川」に掲載のため	釈野河津跡	空中写真 新谷台遺跡 赤瓦出土状況 泥メソコ
20	10月10日	株式会社 学芸研究社	字研・歴史探偵シリーズ特別編集「決定版 図説東国平野集」に掲載するため	大塚古墳	小丸

番号	申請日	申請者	利用目的	申請	物件名
21	10月11日	玉穂町教育委員会	「第30回工芸町文化祭」に展示するため	北河原遺跡	作樂風景 2号溝遺物出土状況 須田上状況 1号集落人骨埋蔵品出土状況 地形写真 P6c3人土出土状況 1号上層下層遺物出土状況 12号上層遺物出土状況 2号集落人骨出土状況 2号集落人骨出土状況 中倉塚
22	10月15日	若草町教育委員会	「若草町の遺跡と文化財」に掲載するため	新原遺下遺跡 村宮東人遺跡 二木原遺跡(甲西バイパス) 二木原遺跡(福野院)	遺跡風景8点 遺跡風景3点 遺跡風景16点 遺跡風景5点
23	10月25日	山梨県考古学協会	「山梨県考古学協会秋期大会 十番から探る縄文社会」研究会発表資料に掲載するため	浜谷橋遺跡	台形十部実測図
24	10月25日	帝京大学山梨文化財研究所	山梨大学山梨文化財研究所「所刊」44号に掲載するため	両谷橋遺跡	第10号住居跡断面出土土器状台形土器と粘土焼出し土器 第10号住居跡ピット出土土器状台形土器と粘土焼出し土器
25	11月6日	小野子文	山梨県考古学協会研究集「七番から探る縄文社会」の巻末レジュメに掲載するため	原町豊貴高校前遺跡	縄面粘土片十番
26	11月8日	株式会社 グルー企画	ビデオ「奥蔵 考古学」(仮題)の解説冊子「遺跡めぐりガイド」(仮題)に掲載するため	倉生遺跡	中宇土器
27	12月1日	財団法人 山梨県公園公社	公園案内パンフレットに掲載のため	考古博物館 研修センター 鏡子塚古墳	外観 外観 全景
28	12月12日	エルシーブイ株式会社	テレビ番組「新・遺跡の歴史」内で使用するため	倉生遺跡	中宇土器
29	12月18日	株式会社 小学館	『考古資料大観 第9巻 弥生・古墳時代 本・編纂』に掲載するため	湯田遺跡 倉生遺跡	中宇 又編 他 割形土器品 群 瓦葺不明木製品 湯田不明木製品
30	12月19日	株式会社 ジャパン通信情報センター	「文化財探検100選」2003年2月号に掲載するため	甲府城下町遺跡	築造風景と出土品13点
31	12月20日	都賀市教育委員会	都賀市博物館ミュージアム都賀企画展「古代への旅～ふもととの遺跡～」に展示するため	中宇遺跡	12号住居跡全景 1号住居跡出土状況
32	12月25日	長沢書店	近代学芸図鑑全資料集に掲載するため	沼沢 鳥居古墳前遺跡	小瓦片器出土器 形外土器
33	1月15日	株式会社 芸術堂	「先史日本を復元する 3」縄文のマツリと暮らし」に掲載するため	中宇遺跡	赤文字器赤色土器 縄文土器
34	1月20日	都賀市教育委員会	都賀市立考古資料館特別企画展「ヒスイに魅せられた一縄文から弥生へ」の展示図録に掲載するため	天神遺跡 大月遺跡 倉生遺跡	縄文土器出土状況 群集人土 群集人土 群集人土出土状況 群集人土 群集人土出土状況 群集人土出土状況
35	1月28日	長坂町教育委員会	長坂町郷土資料館に展示するため	酒呑湯遺跡	遺跡風景 形外土器 A区調査区全景 C区第31・32号住居跡土器出土状況 C区第41号住居跡遺物出土状況 C区第174～179号上層遺物出土状況
				横針前久保遺跡	C区調査風景 調査区近景 群外土器 ナメタ形土器 台形群石器 遺物出土状況 群集人土出土状況 火穴及び銅線を挟む石器
36	2月13日	大坂城大守館	「歴史遺産としての石室墓遺物の土木史的研究」内「花崗石心柱の技術の誕生とその展開」に掲載するため	甲府城跡	石室遺構 大穴及び銅線を挟む石器
37	2月16日	福寿社	「遺跡」1293号に掲載するため	安達寺遺跡	石孔群付土器
38	2月26日	株式会社 小学館	「日本全図史学入門」に掲載するため	鏡子塚古墳	全景
39	2月27日	山梨県生涯学習創造センター	生涯学習創造センター発行予定「山梨の人と文化」に掲載するため	考古博物館 天持寺遺跡	復元された彫穴床 群
40	3月11日	日本テレビ放送網株式会社	「メレンゴの尻持ち」内で使用するため	一の穴遺跡	人体文土器 土料 断面把手 人面鏡形付十番 断面把手 安達寺遺跡
41	3月19日	山梨県教育委員会	教材用ビデオ「高畑遺跡のすべて(仮名)」内で使用するため	湯田C遺跡 安達寺遺跡 湯田遺跡 湯田遺跡	高畑形土器 高畑形土器 高畑形土器 高畑形土器 縄文時代環状集落

5. 所内研究グループ

縄文研究部会

当部会では、2000年度から山梨県内の縄文土器をまとめた「山梨の縄文絵引き」を作成しているが、2002年度は2001年度の「早期末・前期」の統編として、県内で出土した諸磯a式土器を集めて前後業編を作成した。現在の所、山梨県内では諸磯b式の段階から遺跡の数が増加する傾向にある。諸磯a式については県内の資料が少なく、6市町村・8遺跡の資料を掲載した。今後は、資料が膨大な量になる諸磯b式以降について、どのような形で縄文絵引きを作成していくのが課題となる。

縄文土器編年概観研究部会

当部会では、研究する日数は少なかったが、実際の縄文土器を観察したり、写真撮影をすることによって、その概観に関する勉強会を行った。特に釈迦堂遺跡（釈迦堂博物館）における遺物、西原遺跡・柳原遺跡（境川教育委員会）における遺物を中心に学習を進めた。しかし、思うように時間を確保することができなかったため、研究が進まない現状である。今後の活動について検討が必要である。

花鳥山遺跡研究部会

県史編纂事業の一環として國學院大学から借用している花鳥山遺跡発掘品の整理及び図化をおこない、考古学的な位置づけと資料化をはかることを目的としている。2001年度に引き続き2002年度も拓本、断面実測をすすめる。花鳥山遺跡資料の中でも特に問題となる諸磯b式からc式にかけての資料を中心に行った。該期は従来の研究により断絶があるとも理解されているが、本資料にはこのギャップを埋める資料が多数含まれており、中部高地での独自の展開が予想されるところでもある。資料は膨大にあり、選別とその図化をさらに継続していく必要がある。

古墳研究部会

当部会では、県内に所在する古墳についてその所在と現状を把握し、順次それらをカード化する作業を行っている。2002年度は境川村の北部地域に所在する蛇山古墳群周辺の踏査を行った。しかし、踏査については天候などに左右されることもあり計画通りに進まないのが現状で、今後の活動について検討を要する。

実験考古学研究部会

山梨では、古墳時代後期の境川村牛居沢窯跡やほぼ同時期の敷島町天狗沢瓦陶兼用窯跡が知られているが、周辺県ほどの生産の隆盛は見られない。また、奈良・平安時代に韭崎市や須玉町などで独自の須恵器が存在するが、窯跡は確認されていない。当部会では、これらの状況を踏まえて、「山梨の採取粘土により須恵器製作を行い、①山梨で須恵器生産が低調であった理由の追求、②遺跡出土遺物と実験試料との比較による生産と供給関係の解明、③須恵器の製作技術の復元」を研究テーマに設定し、研究活動に取り組んだ。2002年度の主要活動は、県内の窯跡関係資料の収集及び焼成実験用窯（灯油窯）の開窯準備にとどまった。2003年度は、須恵器製作技法及び採取粘土の再検討などを行い、本格的に焼成実験を開始し、上記の実験目的を追求していきたい。

文化財保護行政研究部会

景気低迷を反映し埋蔵文化財行政が大きく転換しつつある状況下において、当埋蔵文化財センターが抱える問題点の整理検討を行った。その中で、職員に対するアンケート調査を実施し検討を行った。アンケートは当埋蔵文化財センターの業務内容、職員の業務に対する認識、外部委託の課題、センターの将来像などを重点とした。回答からは改善点や問題点が多く指摘されたが、各担当遺跡ごとに性格が多様であることなどに起因して、職員間での仕事量や取り組み方など多様であることが改めて明らかになった。埋蔵文化財に関わる仕事は、

これまでは主に「個々の仕事を進めながらゆるやかな基準を導き出すという帰納的な処理」を行ってきており、行政の仕事として一般的な「統一的な基準を個々の仕事に適用していく演繹的な処理」をすることが難しいという大前提があることが再確認できた。しかし、現在では予算や業務の計画性と透明性さらに説明責任が求められるようになってきている。今後の埋蔵文化財センターとしては、行政的な制度と埋蔵文化財行政との整合性をいかに維持するのかが大きな課題となっていることを再認識した。

考古教材研究部会

2002年度当部会は行政教員5名、専門職員2名の計7名で活動した。2002年度は昨年度に引き続き、山梨県内の国指定および県指定史跡の教材化をテーマとして活動した。具体的には2001年度に執筆した各史跡の解説文と収集した資料を基に資料集の編集作業を進めた。10月末に「先生のための考古資料集第6集—山梨県内の国指定・県指定史跡—」(冊子)の刊行をみた。その後、冊子を山梨県内の小学校・中学校・高等学校や埋蔵文化財センター・考古博物館職員などに無償配布した。今後、必要に応じて各教育機関等にも配布する予定である。

6. 第15回市町村埋蔵文化財専門職員研修会

2002年度は、埋蔵文化財センター創立20周年記念事業として2002年9月29日開催された「縄文トーク2002in山梨」を研修会として行った。当日は2部構成で、第1部が講演、第2部がパネルディスカッションとした。第1部の講演では名古屋大学名誉教授 渡辺 誠先生から「縄文土器にみる女性」、俳優 荻谷俊介さんから「縄文の生死観」と題するご講演をいただいた。第2部ではもう一人のゲストである女優の竹下景子さんを迎え、大塚所長がコーディネーターとして加わり、「祈りの造形に込められたもの」というテーマに沿って鼎談していただいた。本県の縄文文化には、人物や動物がモチーフとなった独創的で迫力のある文様が施される土器や、土偶などの祭祀的な遺物が多くみられ、学術的にはもちろん、芸術的にも高く評価され、重要文化財に指定されたものもある。これらの遺物には、海外での展覧会にも度々出品されるものがあり、本県の縄文文化は文化遺産としてアピールできるものと考えられる。このような山梨で出土した主たる遺物などをスライドで上映し、当時の人々の生活の様子や、精神世界を読みとり、講師の皆さんに語って頂いた。

今回は一般の方を対象とした記念事業を当研修会としても行ったものであるが、その視点が郷土の歴史を埋蔵文化財を通じて学習普及するという重要な役割を担う専門職員にも、多くの示唆を与えることのできた事業であったと思われる。また、講師の皆さんが様々な角度から述べられた指摘は、山梨の縄文文化を理解するうえで傾聴すべきものが多々あった。

7. 山梨県埋蔵文化財センター創立20周年記念事業

資料普及課では山梨県埋蔵文化財センター創立20周年記念事業として「鼎談」と「記念展示会」の二つの事業を企画実行した。

①鼎談「縄文トーク2002in山梨 ～祈りの造形に込められたもの～」

2002年9月29日(日)、山梨県立県民文化ホール小ホールに於いて、渡辺誠氏(名古屋大学名誉教授)、竹下景子氏(女優)、荻谷俊介氏(俳優)の三名を迎えて開催した。前半に渡辺誠氏および荻谷俊介氏による基調講演が行われ、後半に竹下景子氏および大塚初重県埋蔵文化財センター所長を交えて山梨県内出土の縄文土器の文様から縄文人の祈りや生活を考え、ディスカッションを行った。会場は約600名の聴衆ではほぼ満席となる盛況であった。鼎談終了後には会場内で荻谷氏著作本のサイン会も実施され好評を得た。

②記念展示会「the Jomon」

2002年9月7日から10月6日までの約一ヶ月間、毎日朝8時30分から午後9時まで期間中無休で甲府市丸の内市民情報プラザ一階の展示場に於いて、山梨を代表する縄文時代中期の大遺跡である北巨摩郡長坂町に所在する酒呑場遺跡出土の縄文土器約150個体を一堂に会し展示公開した。これら酒呑場遺跡の出土品をとおして

山梨県の優れた文化遺産を県民および全国にアピールし、埋蔵文化財に対する理解を深め、保護活用の協力を得ることを目的とした。期間中県内外から人勢の見学者が訪れた。

8. 遺跡調査発表会

遺跡調査発表会は、山梨県内で当該年度に発掘調査された遺跡についてその調査内容や成果を公表する催しとして年2回のペースで開催している。開催は民間の考古学研究団体である「山梨県考古学協会」と共催で実施しており、スライド上映を交えた口頭説明および出土遺物や写真パネルのミニ展示も併設している。また、各調査担当者からの説明に加え、時代・時期・地域などの特性に応じた研究者からのコメントを追加し、参加者の理解を高める方策もとっている。本年度の発表内容等は下記のとおりでである。

■2002年度上半期遺跡調査発表会

開催日時 2002年10月19日（土曜日）午後1時から4時10分まで

開催会場 風土記の丘研修センター講堂

発表1 西柱町 宮の前遺跡（発表者 山梨県埋蔵文化財センター 吉岡弘樹）

縄文時代中期後半の網籠形敷石住居跡や縄文時代後期初頭の配石遺構などについての報告。

発表2 塩山市 塩山バイパス関連遺跡群（発表者 山梨県埋蔵文化財センター 石神孝了）

五反田遺跡、大木戸遺跡、影井遺跡、下西畑遺跡、西畑遺跡、保坂家屋敷墓など縄文時代前期から江戸時代まで多岐に渡る遺跡の調査内容の報告。

発表3 甲府市 川田遺跡群山梨学院川田運動場遺跡（発表者 甲府市教育委員会 平塚洋一）

平安時代の大集落および16世紀代の石積みを作う溝の報告。

発表4 甲府市 塩部遺跡（発表者 甲府市教育委員会 佐々木満）

弥生時代後期末から古墳時代前期初頭の方形周溝墓、竪穴住居跡および掘立柱建物跡からなる集落跡などについての報告。

発表5 甲西町 宗持の里遺跡（発表者 甲西町教育委員会 広瀬和弘）

中世の火葬墓群、井戸、集石遺構、建物群、石列群などの報告。

■2002年度下半期遺跡調査発表会

開催日時 2003年3月8日（土曜日）午後1時から4時40分まで

開催会場 帝京大学山梨文化財研究所 大ホール

報告 平成14年度の県内埋蔵文化財の調査と保護（発表者 山梨県教育委員会学術文化財課 山本茂樹）

平成14年度の県内における調査動向および埋蔵文化財保護の状況についての報告。

発表1 山梨市 高畑遺跡（発表者 帝京大学山梨文化財研究所 榎原功一）

笛吹川河岸の低地における縄文時代中期の集落遺跡および平安時代の集落跡についての報告。

発表2 長坂町 段道遺跡（発表者 長坂町教育委員会 長谷川 誠）

八ヶ岳東南麓の縄文時代中期後半の竪穴住居跡群および配石遺構などの報告。

発表3 韮崎市 宿尻第二遺跡（発表者 韮崎市教育委員会 関田俊明）

古墳時代前期の竪穴住居跡群および掘立柱建物群などについての報告。

発表4 甲府市 甲府城下町遺跡（発表者 山梨県埋蔵文化財センター 森原明廣）

JR甲府駅南口で調査された江戸時代の武家屋敷地の調査内容の報告。

〈文献〉

山梨県埋蔵文化財センター・山梨県考古学協会 2002. 10. 19 「2002年度上半期 遺跡調査発表会要旨」

山梨県埋蔵文化財センター・山梨県考古学協会 2003. 3. 8 「2002年度下半期 遺跡調査発表会要旨」

9. 山梨の遺跡展2002

2002年度に、埋蔵文化財センターによって行われた発掘調査と資料普及活動の概要および市町村教育委員会によって行われた発掘調査の概要の発表の場として「山梨の遺跡展2002」を開催した。遺跡展の目的は2002年度に行われた発掘調査の成果の一部や資料普及活動の様子を、いち早く県民に紹介することである。

「山梨の遺跡展2002」は2003年3月15日(上)から4月6日(日)まで、県立考古博物館の特別展示室を会場として行った。入場は無料とした。展示の内容は①埋蔵文化財センターによって発掘された遺跡の展示、②市町村によって発掘された遺跡の展示、③パネル展示、④新聞パネル展示の4種類の展示をした。①では、大木戸遺跡(塩山市:土器・石器類)、原町農業高校前遺跡(長坂町:土器類)、宮の前遺跡(西桂町:土器類)、當代遺跡(御坂町:土器・石器類)、大ネギ遺跡(御坂町:土器類)、中沢遺跡(山梨市:土器類)、武家遺跡(山梨市:土器類)、寺部遺跡(若草町:土器類)、甲府城下町遺跡(甲府市:陶磁器類)、鯉沢河岸跡(鯉沢町:ガラス類)の10遺跡の出土資料とパネル展示を行った。さらに埋蔵銭貨出土遺跡群細分布調査の出土遺物展示と甲府城跡(甲府市)、藤田池遺跡(増穂町)のパネル展示を行った。②では、甲府市教育委員会の発掘による塩部遺跡(土器・石器類)、甲府市教育委員会と帝京大学山梨文化財研究所の発掘による川田遺跡群山梨学院川田運動場遺跡(土器類)、甲西町教育委員会の発掘による宗持の里遺跡(土器類)の出土遺物を各機関から借りて展示した。③では、埋蔵文化財センター資料普及課による20周年記念事業・出前授業などの様子をパネルを用い紹介した。④では、埋蔵文化財や発掘調査について新聞に掲載された記事をパネルで展示した。

これらの展示を通じて、県民の皆様に埋蔵文化財への理解、郷土山梨への歴史認識を深めていただくことができたと考えている。

10. 所内研修

2002年度の所内研修は、研究紀要17、18の執筆者が講師となり、論文の要旨を発表した。研究紀要は、考古博物館・埋蔵文化財センター職員の口頭の研究成果の一端を掲載するもので、その対象となるものは旧石器時代から近代まで広範囲に渡る。このことは、文化財主事の調査対象とするものが極めて多様であることを示しており、発掘から整理、報告書作成において常に幅広い知識を要求されることを示している。しかしながら、日常の業務や個々の専門分野の研究などで、個人レベルで致時代に渡る多様な知識を得ようとするのはなかなか困難である。このような状況を勘案し、文化財主事が専門分野外の知識をより広範囲に得てもらう機会として、このような研修を行っている。

なお、2002年度の全体研修は、事前のアンケートからグループ研修に多くの時間を充たしたいという意見が寄せられたことや、20周年記念事業の準備等の影響で、上半期は市町村埋蔵文化財専門職員研修会を含め2回、下半期は3回の計5回が行われた。

- 8月30日 甲府城内葡萄酒醸造所について 一國産ワインの発祥地甲府—(講師 宮久保真紀)
県指定史跡甲府城跡の調査で検出された甲府城内葡萄酒醸造所(明治10年創設)に伴うと考えられる遺構や遺物に加え、古写真や文献なども参考にして、その復元を試みた。
- 9月29日 市町村埋蔵文化財専門職員研修会 「縄文トーク2002in山梨」
- 10月31日 道々茅木遺跡の土馬と土馬祭祀の起源 (講師 三森鉄治)
甲府市道々茅木遺跡から出土した土馬について、他遺跡で出土した事例との比較を行い、朝鮮半島も射程とした土馬の祭祀形態のなかでその用途を考察した。
- 11月29日 鯉沢河岸跡出土の泥面子について (講師 小林 登)
鯉沢河岸跡の調査は1996年度から着手され、現在も調査は行われている。このうち2000年度の調査で出土した泥面子について、その分類を行い、用途や流通経路などを他遺跡での類別との比較を行いながら、若干の考察を試みたものである。
- 2月28日 各研究部会の成果発表

11. 寄贈・購入図書

2002年度の図書登録数は約4,000冊である。その内訳は、全国の都道府県・市町村教育委員会等から送付された発掘報告書・年報・研究紀要、博物館・資料館等の企画展・常設展示図録、その他の関係機関からの寄贈に加え、業務に関係する考古学・歴史・学術雑誌・資料普及活動用図鑑等の購入からなる。2001年度までの蔵書数は約80,500冊と報告されていることから、これに2002年度分を足すと約84,500冊となる。蔵書数の増大に従い、収納スペースが絶対的に不足している状況である。こうした現状に対処するため、2002年度は3つの書棚を増設して図書収蔵環境の改善を図ったが、書棚の設置スペース自体が既に限界に近いことから、新たな収蔵スペース・部屋の確保を含めた抜本的な検討が必要な段階と考えられる。

II 各遺跡の発掘調査概要

1. 鯨沢河岸跡 A・B

所在地	南巨摩郡鯨沢町白子明神地区（鯨沢町1374-5外）
事業名	宅地水防災対策工事（鯨沢河岸跡A） 一般国道52号改築工事（鯨沢河岸跡B）
調査期間	2002年6月24日～2003年3月14日
調査面積	A：5140㎡（525㎡×1面、850㎡×2面、 532.5㎡×2面、760㎡×2面、160㎡×2面） B：2220㎡（1110㎡×2面）
担当者	A：小林 稔・村石真澄 B：小林敏徳・一瀬一浩



鯨沢河岸跡 位置図

甲府盆地を代表する二大川である笛吹川と釜無川の合流点から約3km下流に鯨沢河岸跡は位置する。この地は駿州街道と甲府盆地内の東西陸路交通の結節点ともなっている。「鯨沢河岸」は江戸時代に開かれた富士川舟運の船着場であり、青柳河岸・黒沢河岸とともに甲州三河岸と呼ばれた中の第一のものとして大いに発展し、今日の鯨沢町発展の基礎となっている。今回の事業では2000年から発掘調査を着手し、甲府代官所支配下の年貢米を集積した御蔵台跡・御米蔵跡、道路跡・河岸間屋街などを確認している。

道路跡・河岸間屋街南端（A3区・A4区北半）

駿州街道（現国道52号）から御蔵台跡へ荷を運ぶ道路跡を2001年に引き続き調査した。道路幅は二間幅（3.6m）の規模であり、道路は現在に至るまで使用され続けたが河岸の衰退により道路幅員が縮小されていることが判明した。この東側路肩は石垣が築かれ、強固に突き固められた堆積層が厚さ4mで、この中に少なくとも6層の明瞭な路面が認められた。道路東脇では江戸時代以降にもたらされた洪水細砂・シルトが3m以上の厚さで堆積しており、洪水の被害を受けるたびに路面を上へ上へと積み重ねてきた結果であることが判る。これは道路を維持するためには相当な努力が必要であったことを示すとともに、この地が相当な労力を払ってもなお価値があったこと示すものである。また明治時代の鍛冶作業跡を確認した。送風機の役割を果たす輪に取り付けられた土製の羽口などを発見した。石垣を積む石工が自らのノミを火作りする仮設の鍛冶工房であった可能性が高い。

突き固めた建物基礎からはポートワイン型のワインボトルが6本まとまって出土した。とくに注目されるのが6本とも口の部分だけが欠損していることであり、ビンの口を意図的に欠いたものと考えられるためである。建物基礎を突き固める作業中の地鎮祭などで土地の神などに捧げられた後に埋められた可能性が高い。

この地区での特記すべき出土遺物としては、甲州金一分判が直接伴う遺物はなくほぼ単独で出土している。これは2000年度に出土したものと同一甲州金一分判の中でも「甲定金」と呼ばれるものである。これまでの調査では寛永通寶をはじめとして明治以降の硬貨が散在的ではあるが総計約1000点と大量に出土しており、これらは地鎮祭などで家内安全や商売繁盛を願って大地に撒かれたものであり、鯨沢河岸の大きな財力の一端を示すものと考えられる。また非常に小型の銅製印章も出土している。この小型印章は印面が1cm角弱であり、しかもツマミ部分もごく小くまた紐を取り付けるための孔があり携帯用と考えられるものである。

河岸間屋街北西部（A2区・X1区・X3区）

西を国道52号に、北を南川に限られる今回の事業対象地の北西隅にあたる。石垣が集中して存在しており、その多くは江戸時代から築かれはじめ後世の継ぎ足しをされて平成の時代まで家屋が建てられていたものである。つまりひとつの石垣であっても、下部と上部が築かれた年代が異なるわけであり、発掘調査ではこの点に多くの注意を払った。こうした石垣を取り除いたところ、この下から面が向きあった2列の埋没石垣をさらに検出した。これは敷地の境をなすものであり、隣家と別個に石垣を積んだ結果として相接したものであると考えられる。これを裏付けするものとして次のような話が地元で語られている。こは洪水常習地帯であり、家の

改築などに際しては石垣を築き盛土を行い敷地を段々と高くしてきた。周囲の敷地が高くなれば、洪水のときには自分の家だけが浸水することになってしまうために、隣家と競争のようにして石垣を積んできたという。しかもこの埋没石垣は、明治時代から平成の時代まで継続してきた石垣と方向がほぼ90度異なっている。この埋没石垣が示す地割りは、鯉沢町町誌に掲載されている明治9年の地籍図に見える現在に至る地割とは一致せず、江戸時代末の海野家絵図の地割と一致するものである。江戸時代の地割は南川に面した間口の狭い短冊状のものであり、江戸時代末から明治時代初めに、この付近の街並みの方向が大きく転換したことを示している。この段階で鯉沢河岸のまちづくりの計画が大きく改変されたことが推定される。またこの埋没石垣は現在の地表面から少なくとも3m以上埋没している。これは現在の南川の川床面よりもかなり低いものであり、江戸時代末には河岸間屋街の地割だけでなく地形面から見てもその様相が現在と大きく異なっていることが窺える。

この江戸時代の地割の北西隅からは扁平な礎石上に横たわる炭化した土台材を検出した。土台材の礎石中央部に当たる部分では、柱材が立っていたものと考えられる垂直のほぞ孔(13×4.8cm)があり、家屋が建てたときの原位置を保っていると考えられる。周囲には焼土粒・炭化粒がおびただしく散布しており、火災直後に片づけを完全に行わないままに埋められたものと考えられる。家具もしくは建具に使われていたものと思われる小型の角釘なども出土している。文政4年の鯉沢河岸大火のときのものである可能性が高い。

河岸間屋街北東部(X2区)

本事業の対象地の最も北東に位置し、調査区北東辺に沿って南川が流れる。南川はかつて現在の位置よりも東側を流れていたが、大正11年に改修され現在の流路となっている。

文政4年(1821)の鯉沢河岸大火の痕跡と考えられる焼土・炭化物からなる層をこの調査区の広い範囲から検出している。大量の焼土・炭化物が硬化した生活面を覆うように広い範囲で堆積し、文献からもみえるように、その後の河岸存続を脅すような大きな火災であったことが想定される。いくつかの建物の外側では繊維質の炭化物がまとまった形で検出され、火災の折に屋根材が焼け落ちたのではないかと思われる。しかし、家屋の柱や梁などに用いられたであろう木材が炭化したものは確認できず、それらは選り出され何らかの形で再利用されていたと考えられる。また、南端部分では径約2m深さ約50cmの不整形の穴が5基確認され、その内部からは火災後の処理で集められたと思われる焼土や細かな炭化物を検出している。

石垣は幕末に積まれたものや、明治期に積み重ねられ近年まで使用されていたものを確認している。それらは駿州街道(現国道52号)に面した大店に用いられる石垣に比べ、石垣を構成する個々の石は小ぶりで加工度の低いものが使用されている。今回調査を行った地区においても街道に近い地点の石垣は、個々の石が大ぶりで積み足しが数回行われ長期間に渡って使用されてきたものが認められるが、他の地点では1mを越えるような高さの石垣はごくわずかで、洪水の度に積み足しを繰り返して高くしていった様子は認められない。河岸周辺全域に言えることだが、富土川に近く、街道からは一段下がったこのような場所では洪水の度に整地を繰り返し、石列を並べかえ、建物を建てていたと考えられる。検出された石垣や石列は海野公機氏所蔵の絵図にみえる宅地の区画に相当すると思われるものがあり、発掘成果と絵図を照合することによって鯉沢河岸が最も繁栄していた幕末から明治期の様子を窺い知ることが出来る。その他石垣以外には南東部分で井戸跡や、中央部分で現在の富土川河川敷に広がっていた白子新屋敷地区へ続く幅約1.6mの遺跡なども検出している。

出土遺物は陶磁器・土器類を中心に日常生活雑器が多くみられた。また、薬ビン・インクビン・目薬ビンなど多数のガラス製品、寛永通宝を主とする銭貨約130点、泥めんこ7点が出土している。また、文政4年の大火層より下層には粗砂からなる洪水砂が約1.5mの厚さで堆積するが、その下から石列を伴う生活面が検出され、18世紀の瀬戸美濃系・唐津系などの陶器・碗の完形品が数点出土している。

これまで行われてきた鯉沢河岸跡の調査で出土している甲州金や二朱銀・その他の陶磁器類や泥めんこなどの出土状況からすると、河岸を中心に広がっていた間屋街であっても、街道沿いには立派な石垣をもった大店が並び、街道から路地に入り一段下がるこのような土地では洪水と共に暮らした庶民の生活の匂いを強く感じる。河岸の発展とともに河岸周辺には旅館や商店が軒を連ね華やかな顔を見せていた一方で、今回調査を行った地区のように大通りから離れた場所では、それを支えとして生活していた人々の暮らしがあったのではないだろうか。



A2区・X1区・X3区全景（東から）



A3区・A4区北半2面全景



X1区2面全景



A2区2面焼失建物跡



X2区・X3区全景（南から）



石垣・石列検出状況（左第1面・右第2面）



焼土面（鯉沢河岸大火）検出状況



陶器碗（瀬戸美濃系・唐津系）出土状況

はらまちのうぎょうこうこうまえ 2. 原町農業高校前遺跡

所在地 北巨摩郡長坂町渋沢1007ほか（北杜高校地内）

- 事業名 ①北杜高校内弓道場建設
②北杜高校内投球練習場建設
③既設グラウンド整備事業に伴う発掘調査

- 調査期間 ① 試掘調査 2002年4月19日
本格的調査 2002年6月2日～7月19日
② 試掘調査 2002年6月17日
本格的調査 2002年7月11日～8月2日
③ 立会調査 2002年8月19日
本格的調査 2002年8月27日～10月1日

調査面積 ①約140㎡②約300㎡③約1,800㎡

担当者 保坂康夫・田口明子・正木季洋



原町農業高校前遺跡 位置図

原町農業高校前遺跡は長坂町渋沢地内、八ヶ岳南麓七里岩台地上にあって東西を鳩川・宮川の流れる谷に挟まれた小尾根先端、標高約617～620mの地点に位置する。遺跡は2000年度から本格的な調査が行われており、2001年度の発掘調査においては縄文時代中期の住居跡が100軒以上確認され、当該期の八ヶ岳南麓地域の拠点的な集落の一つと考えられる。2002年度の調査区は2001年度調査区の西側に隣接する既設グラウンド内にあり、弓道場地点・投球練習場地点・グラウンド整備地点の3つの地点からなる。

【弓道場地点】

既設グラウンド内の北西部に弓道場建設が予定され、4月19日にのめ場・射場の2カ所の部分について埋蔵文化財の有無の確認のための試掘調査を行った。その結果、射場部分より縄文時代中期～後期の遺物を包含する遺構を確認したことにより本格的調査を行うこととなった。

調査の結果、縄文時代中期・後期の土坑約60基、平安時代の竪穴住居跡1軒、土坑2基、中・近世の溝状遺構4条、土坑3基、礎石群、畑跡が検出された。調査区は台地の平坦面から斜面への変化点になっており、調査区北東部の平坦面から南西に向かって斜面が形成されている。溝状遺構はこの変化点に沿って展開しており、斜面部に確認された畑跡を区切るためのものと考えられる。溝状遺構からは中・近世のものと思われる土器が出土していることから、中近世に属する遺構と考えられる。

平安時代の住居跡は長辺3.5m、短辺3mのほぼ方形で東側に竈を持つ。竈周辺には貼床と考えられる硬化した厚さ約2cmの層を確認した。主な出土遺物としては土師器の坏や壺などが整理箱で2箱出土している。

縄文時代後期の土坑は主に調査区南西側の斜面部において確認され、投球練習場・グラウンド整備地点や2001年度調査区において比較的平坦な面に検出された縄文時代中期の遺構とは立地の面で異なった様相を見せている。

【投球練習場地点】

調査区はグラウンドの東側、2001年度調査区の西隣に位置する。弓道場地点の発掘調査期間中、投球練習場建設に伴う埋蔵文化財の試掘調査を行い、縄文時代中期の遺物が多数出土したことから弓道場地点に続き本格的調査を行った。

調査の結果、縄文時代中期の竪穴住居跡2軒、土坑6基、時期不明土坑10基が検出された。竪穴住居跡は調査区の東壁において検出された。縄文時代中期の遺物包含層中に掘り込まれており、平面プランは確認できなかったが、遺物の出土状況・土層断面観察の結果から住居跡と認定した。炉跡は調査区外に存在すると考えられる。

遺物は主に縄文時代中期後半の土器・石器が出土し、調査区東側の遺物包含層が厚く堆積する部分からは、

1個体の土器の半分程がまとまって出土している。

【グラウンド整備地点】

調査区は既設グラウンドの東辺と南辺に沿って、7～15mの幅で展開している。急な斜面になっている南西部以外は比較的平坦な地形となる。調査に先だって、既設グラウンド整備工事に伴う立ち会い調査が行われ、表土下約10cmの深さにおいて縄文時代の土坑が約70基、平安時代の住居跡が1軒確認されたことから本格的調査が行われた。

調査の結果、立ち会い調査時より遺構数が増え、縄文時代中期と思われる住居跡2軒、土坑108基、平安時代竪穴住居跡1軒、時期不明款状遺構3条を確認した。

縄文時代の住居跡は覆土がグラウンド建設時に削平されていたが、炉跡が確認されたことや、柱穴配置から住居跡と確認した。住居西側には縄文時代中期後半の筒形土器が埋設されていたが、住居跡との関係は不明である。土坑は108基確認された。土坑内には配石を持つものが多くみられ、墓塚群の可能性が高い。

ほとんどの遺構は平坦面で確認されたが、南西部の斜面部において土坑7基の他に、直径約2.8m深さ1.2mの円形の縄文時代の遺構を1基確認した。この遺構は約4分の1が工事により掘削されるため、遺構の半分を調査対象とした。当初、直径が2.8mに及ぶことや遺構のほぼ中央部、深さ20cmの地点において焼土が確認されたことから住居跡と認識していたが、底面が焼土の深さよりさらに下にまで及ぶことから、住居跡以外の性格を持つ可能性が考えられる。

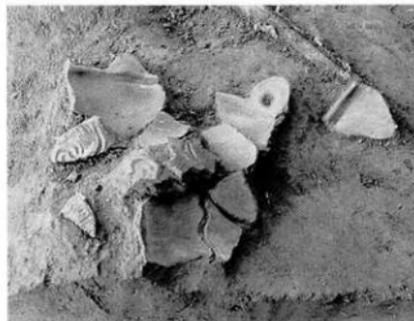
平安時代住居跡は工事による掘削が及ばないことから掘り下げを行わず、平面形の記録を行い、住居跡を切る暗渠機掘を掘り下げ、断面観察を行なった。

グラウンド整備地点において確認された遺構のうち、工事掘削レベルより低く掘削が及ばない遺構（平安時代住居跡1軒、縄文時代大型遺構1基、土坑28基）については掘り下げは行わず、平面形を確認し、実測による記録作業を行った。また、特に縄文時代大型遺構、平安時代住居跡についてはその後の工事などにより破壊されるおそれがあるため、透水性のシートをかけ、遺構の保護を行った。

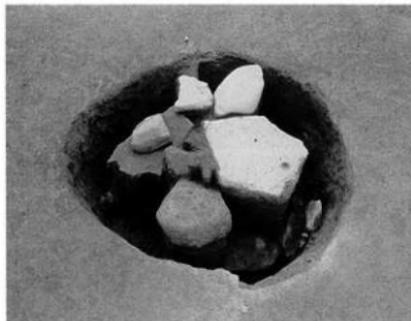
また、グラウンド整備地点発掘調査期間中の9月9日・18日・19日・26日に、同グラウンド内において電気配管・施設工事に伴う立ち会い調査を行い縄文時代の炉跡・埋設土器を確認し、直ちに調査を行った。



弓道場地点完掘状況（北から）



投球練習場地点遺物出土状況



グラウンド整備地点配石土坑

3. 大木戸遺跡

所在地 塩山市下於曾238-3ほか
事業名 国道411号（塩山東バイパス）建設工事
調査期間 2002年5月9日～7月17日
調査面積 150㎡
担当者 小林孝子・小林弘典



大木戸遺跡 位置図

甲府盆地の東に軒を連ねる大菩薩嶺は、塩山市を南流する重川の水源になっている。大木戸遺跡はこの重川の右岸に連続する小山状の高台、標高382m付近に所在する。すでに98・99（平成10・11）年度の2カ年にわたって発掘調査が実施されており、

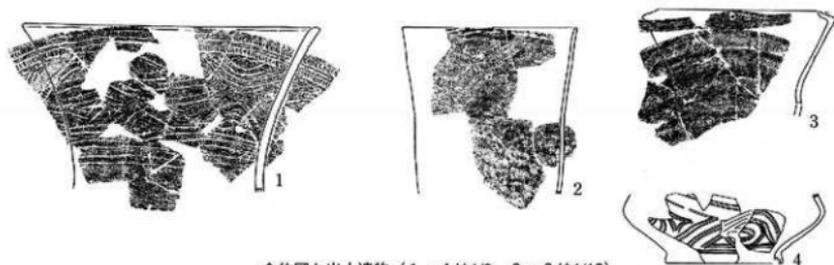
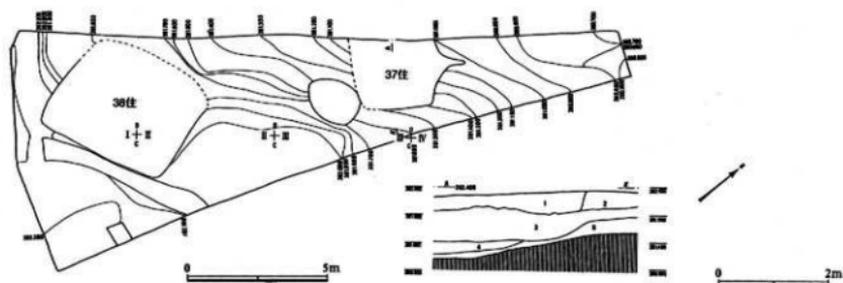
縄文時代前期・中期及び平安時代の集落跡が確認されている。とくに98年度の調査区では、東西に長い台地上に展開する縄文時代前期を中心とする集落跡が検出されている。本年度の調査区は、この集落跡を乗せる台地の北側において、谷状の落ち込みを呈しており、集落の土器捨て場になっていたものと思われる。

発掘調査の結果、古墳時代前期末の住居跡1軒、平安時代の住居跡1軒、そして縄文時代前期諸磯a式期から中期後葉曾利式期まで土器捨て場として利用された谷の存在が明らかになった。

縄文時代前期から中期の谷は、集落跡をのせる台地から北側へ向かって緩やかに傾斜しており、最も深いところでは標高381m前後を測る。谷の最も下層からは縄文時代前期諸磯a式期及びb式期の古相を呈する土器片が出土した。出土遺物全体から見ると、その数は多いとはいえない。またその上層からは、諸磯b式期新相の土器・石器が多量に出土した。これらは南側に位置する集落跡とほぼ同時期のものであり、居住区と土器捨て場のセットが確認されたことになる。また調査区中央の傾斜変換点付近では土坑状の落ち込みが認められ、そこを中心に浅鉢片が多数廃棄されていた。数は非常に多く種類に富んでいるのだが、接合関係は希薄で全体の様相が窺えるものは数少ない。さらにそれより上層では縄文時代中期中葉及び後葉の土器・石器等が出土した。特に後葉曾利式期の遺物は、99年度の調査とあわせて数多く検出されているものの、周辺では住居跡の存在は確認されておらず、付近に当該時期の集落跡の存在が示唆されるものである。

古墳時代前期末の住居跡は台地縁辺部で1軒が確認された。方形を呈するが、北側壁は失われていた。床面付近からは、器壁にケズリを施すS字状口縁台付甕や壺、脚部がやや柱状を呈する高杯などが出土した。当該時期の遺構は98年度の調査区で溝1条が確認されているのみであり、この住居跡がどういった性格のものであるのかは現在のところ不明であるが、本遺跡の北東に位置する下西畑遺跡の方形周溝墓群と同時期であり、その関係が注目される場所である。

平安時代の住居跡は谷部の最上層で確認された。この遺構の検出により、平安時代までには谷が埋没していたことを知ることができた。住居跡は東側半分のみが検出されたにすぎないが、北側壁面にカマドが設置されていた。10世紀後半に位置づけられるもので、大木戸遺跡の集落跡の北限であると推測される。またD-Vグリッドからは同時期の土器とともに刀装具が出土した。近接する影井遺跡では、12世紀代に位置づけられる住居跡から鉄製の鈴が出土していると考え併せて、平安時代には本遺跡周辺がこの地域の要所であったと推測される。



全体図と出土遺物 (1・4は1/6、2・3は1/12)



遺跡全景



平安時代住居跡



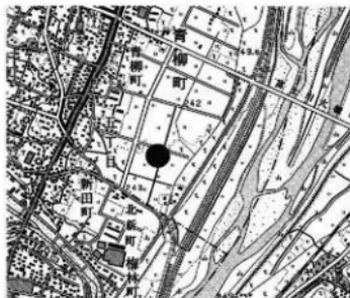
作業風景



体験発掘

4. 藤田池遺跡

所在地 南巨摩郡増穂町字青柳町1846外
事業名 一般国道52号（甲西道路）改築工事
調査期間 2002年7月25日～10月4日
調査面積 1,200㎡
担当者 出井洋文・窪田昌彦



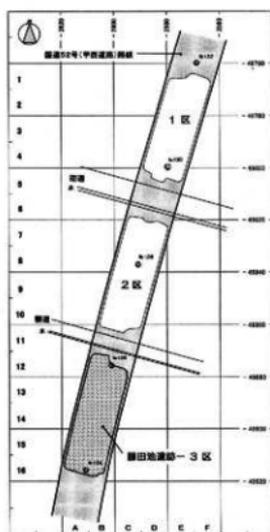
藤田池遺跡 位置図

本遺跡は、甲府盆地の南西部、釜無川と笛吹川が合流し富士川となる付近で、盆地内でももっとも標高の低い沖積地上に立地している。この地域は、江戸時代には富士川舟運における甲州三河岸の一つである「青柳河岸」や「青柳の渡し場」があり、交易の要所として栄えてきた地域である。また、古くから駿信往還の通る地域でもあり、陸上・水上交通の両方を兼ね備えた山梨県内では非常に交通の便のよい土地であったと考えられる。今回の発掘調査は、ここを通過する一般国道52号線（甲西道路）の道路建設工事に先立ち、路線内の一連の埋蔵文化財の記録保存事業の一環として実施されたものである。1996年2月に山梨県埋蔵文化財センターによって実施された路線内試掘調査により主に近世の水田跡が発見され、藤田池遺跡とその北側500mには町屋口遺跡の存在が確認された。藤田池遺跡は、すでに1998年に第1次調査が行われ、全3区のうち1・2区については、調査を完了している。2002年度の調査は、用地問題のため残されていた3区について第2次調査として約2ヶ月間の調査期間で実施したものである。

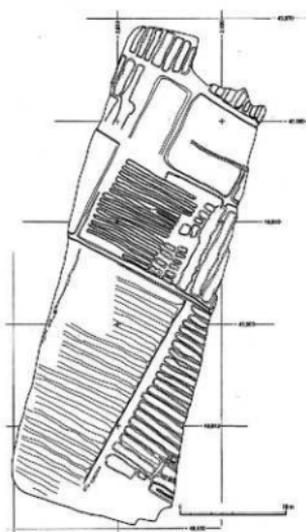
発見された遺構は、7つの水田区画、5つの畠区画、水路跡1、土坑2、部材列1が確認されている。水田区画は、江戸～明治期にかけて耕作されていた水田跡と考えられる。水田各区画には、それに伴って畦畔、足跡と稲株の痕跡、洪水の跡も確認されており、洪水と闘いながら土地の開発、生産を続けた人々の営みが見て取れる発見であった。西側の水田区画では、より低い位置の水田に水を流すための通水施設が2箇所、確認されている。水田区画に混在して畠区画が存在している。この畠区画からは、明治以降の遺物はほとんど見られないので、水田と同様に近世後半のものであると考えられる。畠跡の遺構は、既に県内でもいくつかの調査事例があり、今回の調査でも特記するような新しい内容はないが、藤田池遺跡のような甲府盆地の最低位の土地（標高242mほど）で、地下水位がかなり高い場所であるため、水田の存在は予想していたが、畠の存在は予見していなかった。そのため、水田区画と入り交じって畠跡が確認されたことは、江戸時代から明治にかけての増穂町青柳周辺の農村景観を考える上で重要な情報であると考えられる。部材列は、B14からB15グリッドにかけて確認され、約10mの長さにはほぼ直線に、桶を解体した長さ78cm前後の板材や長い丸太杭を並べている。部分的に杭を打ち、補強していることが注目されたこの部材列は、第1次調査で発見された2区の部材列と同じく、耕作段階の区分けの目印として設置されたものと見られる。

遺構の下位面には、二つほど特徴的な発見があった。まず、木の葉が土壌の中に入り込んでいるのが確認されている。これは、村明細帳などに記載されている刈り敷きに相当するものではないかと考えられた。山の草やそだなどを刈り取ってきて、肥やしとして田や畠に敷き込むのである。もう一つは、下位面を切り込んで見られる何条もの掘り込みの存在がある。これは、藤田池遺跡2区においても確認されたものである。余った地下水を抜くため、また、粘土を利用するために切り取ったなどの推定をしているが、それ以上のことは現在のところは不明である。

発見された遺物は、陶磁器類、土師質土器、漆塗り木製品、銭貨、自然遺体（種子等）などがある。3区は、1・2区に比較して遺物量が少ない。その上、陶磁器類、土師質土器は小破片が多く、凶化できるものは少なかった。寛永通寶は、部材列を覆う土の中から出土しており、貴重であったはずの銭貨を耕作地に落とすわけもなく、田の神・水の神に供えたものと想定するのが妥当であると考えている。江戸時代の農村社会にも銭貨を媒介とした経済活動が浸透していることが何える資料といえる。漆塗りの木製品は、重箱もしくは折式のようなものの一部と考えられるものである。



藤田池遺跡全体図



藤田池遺跡3区



水田区画に残された足跡の状況



畝跡検出状況



通水施設検出状況



銭貨検出状況

5. 宮の前遺跡

所在地 南都留郡西桂町下暮地720-1
 事業名 桂川流域下水道西桂町下暮地発信基地建設
 調査期間 2002年5月10日～6月17日
 調査面積 506㎡
 担当者 齊藤伸・吉岡弘樹

宮の前遺跡は西桂町下暮地内に所在する。遺跡は御坂山塊に連なる三ツ峠山から南方に伸展する尾根の谷部分を桂川に流下する欄干川により形成された左岸段丘上に位置する。当地は標高約615mを測り、東方に競馬山、西方は城山の尾根の先端部、そして、南方に富士山を望むことが出来る比較的温暖な環境にある。過去に1987年（昭和62年）と2001年（平成13年）の2回、西桂町教育委員会により発掘調査が実施されており、中でも前者の調査においては住居跡内より最大器高21.5cmを測る釣手土器が完形で出土し注目を集めた。

今回の調査は桂川流域下水道下暮地発信基地建設に伴う建物部分の506㎡分について実施されたものである。なお、2001年に西桂町教育委員会によって調査された箇所の東側隣接地であることを付け加えておく。

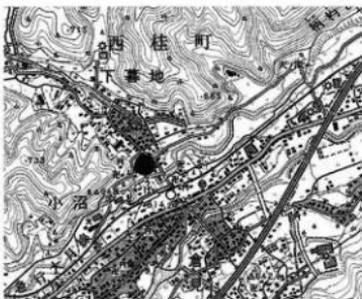
20日間の調査の結果、縄文時代中期後半の柄鏡型敷石住居跡1軒・土坑6基・埴設土器2基などのほか後期初頭の配石遺構1基が検出された。

柄鏡型敷石住居跡は調査区の東側より検出された。居住部の約半分は何らかの原因で削平された模様で確認できなかった。居住部の直径は推定約3.5m、入り口部長径約1.2mを測る。炉は検出されず、これは住居廃絶時に破壊されたものと考えられよう。構築時期は出土土器より縄文時代中期後半代に当たる曾利Ⅳ～Ⅴ式期が比定される。

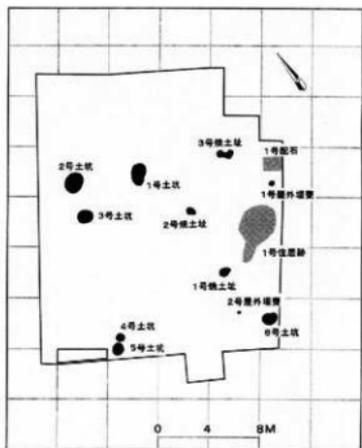
土坑については調査区中央付近に直径約1.2m程の楕円あるいは円形を呈する一群が認められた。現時点ではその用途等について明確にし得ないが、墓坑としての使用の可能性も推測できる。時期は縄文時代中期後半代としておきたい。

配石遺構は調査区東側隅部より一部が確認された。現況での大きさは1×2mで人頭大の扁平な川原石を使用しコの字状を呈する形態を形成させている。しかし、本体の大部分は調査区外にあると推測されているため、その全容は掴むことは出来なかった。構築された時期は縄文時代後期初頭、称名寺式期の古段階と考えられる。

今回の発掘調査では506㎡とかなり限定された範囲にも関わらず縄文時代中期後半代を中心とする集落跡の一部を垣間見ることが出来た。これまで実施された宮の前遺跡の調査結果に今回の成果を加えることによって、縄文時代中期後半から後・晩期に向かって盛行する特色を持つ桂川流域の状況がより色濃いものとなるであろう。



宮の前遺跡 位置図



遺構配置状況



遺跡より富士山を望む



配石遺構検出状況



柄鉢型敷石住居跡検出状況



土坑検出状況



調査風景



完掘状況

6. 中沢遺跡・武家遺跡

所在地 山梨市落合224 (中沢遺跡)
山梨市上岩下316外 (武家遺跡)
事業名 西関東道路建設事業
調査期間 2002年9月2日～12月2日
対象面積 1,000㎡
担当者 長沢宏昌・浅川一郎



中沢遺跡・武家遺跡 位置図

中沢遺跡と武家遺跡は笛吹川扇状地の西縁に位置する。扇状地面は緩やかに南西方向に傾斜している。中沢遺跡の標高は約306m、武家遺跡の標高は約301mである。両遺跡の北西には笛吹川の旧流路である平等川が南西流しており、その右岸には山梨県北部の山地が迫っている。両遺跡周辺の現在の土地利用は果樹園が中心であるが、かつては水田地帯であった。

以下に両遺跡の調査結果の概要を記す。

〈中沢遺跡〉

中沢遺跡では地表下40cm前後において遺構が確認された。地山は暗灰色～褐色の砂質土からなり、所々に10～30cm前後の礫が点在する。調査区最東部では砂質土を欠き表土下に角礫層が堆積している。

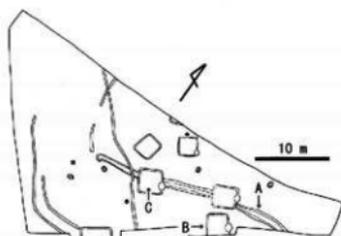
検出された遺構は、古墳時代後期の溝1条、時代不詳の溝5条、奈良時代末～平安時代初頭の住居跡7軒、土坑7基であった。古墳時代後期の溝からは台付臺の破片等が自然礫とともに出土した。奈良時代末～平安時代初頭の住居跡からは多数の土器片が出土した。この時期の住居跡は山梨市では初めての確認であるとともに県内でも確認例が少なく、貴重な資料となりうる。各住居跡からは、土師器、須恵器、磁石などが出土した。これらは奈良時代～平安時代にかけての甲府盆地北東部における土器変遷を知る上で重要な資料となる。土坑は2基から平安時代の土器片が出土したが、掘立柱建物跡などは確認できなかった。時代不詳の溝からは遺物は出土せず、比較的新しい時代のものと思われる。

〈武家遺跡〉

武家遺跡では道路下を調査する都合上、南北に2分して調査を行った。また、湧水を防ぐため、調査に先立ち2.5mの矢板を調査区の周囲に打ち込んだ。遺構は地表下40～70cm前後において確認された。地山は主に暗灰色～灰色の砂質土である。調査区の西側3分の1は比高数10cmの小崖を境して低くなる。この区域は砂質土が薄く遺物は点在したものの精査の過程で下位の砂礫層が現れ、遺構は認められなかった。

検出された遺構は弥生時代後期の住居跡1軒、溝4条、方形周溝墓2基、土坑2基、堅穴1基、時代不詳の溝2条である。住居跡は長辺5m余と大型の長方形で、中央北寄りに粘土で枕石状の盛り上がり有する炉が検出された。炉の内部にも粘土が敷かれており、その上部に焼土が飛散していた。また、炉と同質の粘土塊が主軸上の入り口部分に認められた。本来この部分には梯子受けのピットが存在するはずであるが、このような粘土塊の存在は他に例を見ない。2基の方形周溝墓は1辺が10m前後であり、周溝から台付臺等が出土している。方形周溝墓に先行する溝からは、焼土（焼砂）と生焼け状態の木材（製品かどうかは不明）、炭の集中区が認められた。明らかに溝内で焼成行為があったことを物語るものであり、何らかの祭祀が行われたものと推定される。時期不明の溝の1条からは漆器片が出土している。堅穴とした遺構は一部しか調査されておらずその性格は不明であるが、赤彩の弥生土器、木片、磨製石包丁の未製品など重要と思われる遺物が多数出土した。特に、確実に弥生時代に遡る磨製石包丁は県内では初めての確認であり、貴重な資料といえる。

〈中沢遺跡〉



中沢遺跡全体図



A 1号溝遺物出土状況

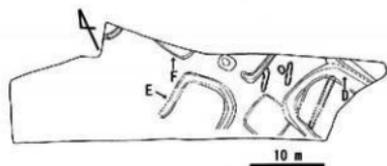


B 2号住居跡集石出土状況



C 4号住居跡遺物出土状況

〈武家遺跡〉



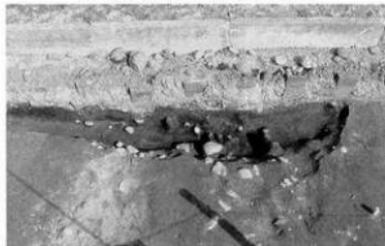
武家遺跡平面図



D 1号方形周溝墓遺物出土状況



E 2号方形周溝墓発掘状況



F 1号竪穴遺物出土状況

7. 当代遺跡・大ネギ遺跡

所在地 東八代郡御坂町成田字当代1585他
同 大ネギ1520他
事業名 山梨県立博物館（仮称）建設事業
調査期間 2002年8月5日～8月27日
調査面積 当代遺跡250㎡・大ネギ遺跡550㎡
担当者 長沢宏昌・大柴鉄哉・浅川一郎・田口明子



当代遺跡・大ネギ遺跡 位置図
(1・当代 2・大ネギ)

当代遺跡、大ネギ遺跡の所在地御坂町は、甲府盆地の東部、笛吹川の左岸で黒岳、御坂山など御坂山塊の西麓に位置する。御坂山より斜面を北西に流れる金川の流域に沿ってなだらかな傾斜の扇状地が形成されており、本遺跡はその先端に位置する。標高は当代遺跡が284m、大ネギ遺跡が282mである。

本遺跡のある扇状地は甲府盆地の陥没によって成立した断層崖下に、金川の運搬による土砂の堆積によって形成されたものである。この堆積層はきわめて厚く、そのため表流水は少ないが、地下伏流水はたいへん豊富であった。しかしこの地下伏流水は、最近の開発により減少している。

本遺跡の発掘調査は、山梨県立博物館（仮称）建設工事に先だって2002年5月13日より、工事着工が予定されている周辺部全域にわたって試掘調査を実施した。試掘は1m×20mのトレンチを約5m間隔で任意に設定し掘り下げを行った。総面積約63,000㎡を調査対象とし、131本のトレンチを入れて調査した。なお、この時点で用地未買収であった部分についても段階的に試掘を行い、2003年1月14日に最後の試掘を実施し、最終的にトレンチ数は141本となった。

本遺跡周辺には地耕免遺跡をはじめとして、縄文時代から平安時代かけての遺跡が濃密に存在するので、試掘の段階から大変期待がもたれた。

調査の結果、当代遺跡からは縄文時代から平安時代までの遺物が整理箱で2箱出土した。遺構は竪穴住居跡が1軒検出された。本遺跡の遺物で特筆されるものは、竪穴住居の埋燗炉に使用された十三菩提土器と石鏃、石斧、石皿、箆き石、台石、黒曜石の剥片などである。特に箆き石は、台石とともに3点出土しているが、使用状況が異なり使用の段階が理解できる。

また大ネギ遺跡からは、東西に溝状遺構1条が検出された。溝中より坏、高坏、高台付坏、壺、皿、高台付皿、甕、羽釜などの破片が積み重なるように出土している。また、土鏃8点（完形6点）が出土した。遺物は整理箱5箱である。この溝状遺構は、西へ数m延びていると予想されるが東限は調査区東端であることが確認された。



大ネギ遺跡・作業風景



當代遺跡遺物出土状況



當代遺跡十三菩提式土器出土状況



當代遺跡（南から）



當代遺跡磨石・十三菩提式土器など遺物出土状況



大ネギ遺跡溝遺物集中区遺物出土状況



大ネギ遺跡土鏝など遺物出土状況

8. ^{まいごうせん かしゅつど}埋蔵銭貨出土遺跡群詳細分布調査

事業名 埋蔵銭貨出土遺跡群詳細分布調査
調査期間 2002年4月1日～2003年3月31日
調査区域 県内全域
担当者 三森鉄治・網倉邦生

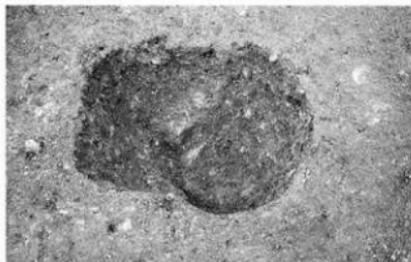
埋蔵銭貨出土遺跡群詳細分布調査は国庫補助による3年計画の学術調査であり、2002年度はその2年目に当たる。2001年度までの調査によって県内全域の主な銭貨出土地が判明し、また聞き取り調査・文献調査等によって出土地点や出土状況等の詳細な情報が収集された。こうした成果を踏まえて、2002年度は未集計および再集計を要する資料を保管者より借用し、整理作業を実施する一方で、埋蔵銭貨出土地の地権者と協議し、了解が得られた出土地について発掘調査を行った。

整理作業については、未集計の大月市駒橋・勝沼町上岩崎・境川村石橋に加え、再集計を要する富士吉田市殿ノ入・埴山市千野烏居原・一宮町竹原田等の出土資料を中心に実施した。このうち大月市駒橋出土の資料からは、高銭が1枚検出された。県内で高銭が発見されたのは初めてであり、銭種的には全国的にも2例目に当たる。また、甲州金と共伴して出土した勝沼町上岩崎の資料の分類・集計作業が完了したことで、これまで不明な点が多い甲州金の起源を探る上でも重要なデータになると考えられる。残存する銭貨の総数は2639枚、最新銭は宣徳通寶（1433年初鑄）である。

埋蔵銭貨出土地の発掘調査は、南アルプス市（旧白根町）小六科・大月市駒橋・高根町村山西側の3ヶ所にわたって実施した。南アルプス市小六科では、出土地が現在柿畑となっていることから、柿に影響のない場所4ヶ所にトレンチを設定して発掘調査を行った。その結果、地下約50cmの礫集中区から江戸時代中期の磁器片が数点検出されたが、中世に遡る遺物・遺構は確認されなかった。

大月市駒橋では、出土地点附近を発掘したところ、銭貨埋蔵遺構と考えられる約30cm四方の上坑が確認された。

高根町村山西側では、年末年始を挟んで計16日間の発掘調査を実施した。その結果、井戸・敷石状遺構などを伴う江戸時代の屋敷跡が検出され、陶磁器・石臼等が出土したが、中世に対応する遺構面の存在は確認できなかった。



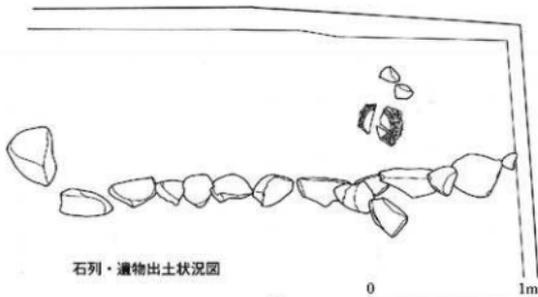
大月市延命寺遺跡：銭貨出土地点完掘状況



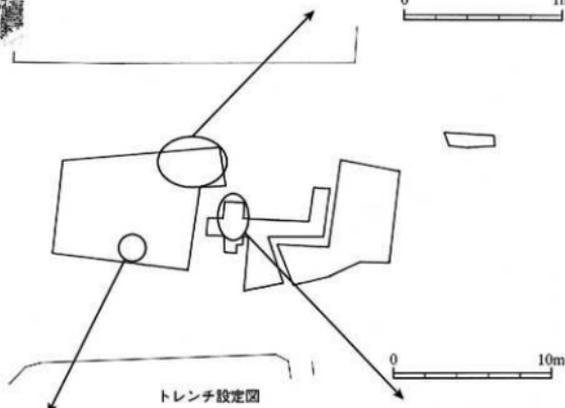
高根町権現遺跡：青磁出土状況



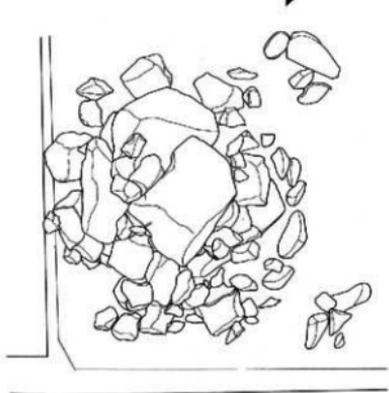
遺跡位置図



石列・遺物出土状況図



トレンチ設定図



井戸検出状況図



敷石状遺構検出状況図

高根町：権現遺跡調査区全体図

9. 寺部村附第9・中西第3遺跡

所在地 南アルプス市(旧若草町) 寺部地内
事業名 新山梨環状道路建設
調査期間 2002年7月1日～2003年1月31日
(尚、家屋移転延期のため11月中は調査を中断した。)
調査面積 6,600㎡
担当者 小林広和・猪股一弘



寺部村附第9・中西第3遺跡 位置図

遺跡は甲府盆地西部の御勅使川扇状地上の南端(標高約270m)に位置している。西方には髯形山を前衛として北岳を主峰とする白峰三山や鳳凰三山などの南アルプスの山塊を仰ぎ見ることが出来る。周辺には甲府盆地西部地域における古墳時代の拠点集落とされ、100軒を超える住居跡が確認されている村前東遺跡、奈良時代の遺溝・遺物が多く確認されている新居道下遺跡などが存在し、弥生時代以降の集落や水田跡が広く展開されている。

2001年度、南町道南西側(面積約1,300㎡)の調査が実施された。今回の調査区域は、便宜上南町道南東側(①区)と南町道から取り壊し予定家屋敷地南まで(②区)と家屋敷地から北町道北側まで(③区)に分け、面積約6,600㎡の予定で実施した。調査区全域においては、以前水田跡だったため湧水、暗渠埋設により水の流入が激しく、特に①②区では事前にシートパイルを所々に設置し、水路を止めたものの排水用の溝と水汲み上げ用の釜場を設け、対処しながら調査を行った。

その結果、遺構では、①区で土坑3基、溝状遺構8条が確認された。②区では、南北に約30mほどの杭打ち溝、その延長と思われる東西約20mほどの板状の水路が発見された。水路西側端に、樽で造られた浄化槽らしきものが検出された。年代は、江戸後期から昭和初期までの、比較的新しい時代と思われる。その他に水溜跡1基、土坑15基が確認された。③区では住居跡2軒、平安期の土器捨て場1ヶ所が確認された。遺物では、平安時代から中世の土器が主に出土しているが、板状水路付近では、江戸後期の陶磁片なども出土している。しかし、完形品と思われるものはない。他には江戸期の古銭が三枚、③区より出土している。

今回の調査において寺部村附第9・中西第3遺跡は、遺構の数は少ないが住居跡、溝状遺構、流路跡、土坑等が確認され、また暗渠も縦横無尽に張り巡らされ、生活の臭いがすると共に、水に恩恵を受け、水に苦勞をした地域だということを再認識した。



②、③調査区全景



①地区作業風景



①地区完掘状況



②地区杭打ち溝出土状況



②地区板状水路全体出土状況



③地区1号住居跡出土状況



③地区1号住居跡土器出土状況



③地区2号住居跡出土状況



②地区板状水路と櫛出土状況

10. 甲府城下町遺跡

所在地 甲府市丸の内1丁目地内
事業名 甲府駅周辺土地区画整理事業（43街区）
調査期間 2002年7月1日～11月1日
調査面積 1,572㎡
担当者 森原明廣・深沢容子



甲府城下町遺跡位置図

甲府城下町遺跡は、JR甲府駅周辺の甲府市街地に広がる近世の都市遺跡である。甲府城下町は16世紀末に始まる甲府城築城に伴い整備され、幕末に至るまで近世甲斐国の中心として栄えた。甲府城下町は甲府城二の堀に囲まれた「武家屋敷地」とその外側の三の堀まで広がる「町人町」から構成されており、その大半は現在の甲府市街地下に埋もれた状態で残されている。今回の調査は、二の堀の内側、甲府城の北郭内の武家屋敷地の一角で行われる土地区画整理事業（ビル建設工事）に先立つ埋蔵文化財の記録保存のための緊急発掘調査である。

調査地点は北郭内を南北に走る街路のひとつである「御先小路」と甲府城から西へ延びる「馬場先小路」の交差点付近にあり、江戸時代後期（甲府勤番支配期）の地番では「馬場先小路93番屋敷地」および「同94番屋敷地」の最低2筆の土地区画にまたがる範囲となる。この屋敷地はこれまでに確認されている絵図面や古文書等によれば、16世紀末の甲府城築城期から17世紀末の甲府家期までは状況不明ながら、18世紀初頭には甲府城主の柳沢吉保・吉里の家臣屋敷が構えられ、その後の18世紀前半から幕末期までは甲府勤番士の屋敷が構えられたことが窺い知られる土地である。

検出された遺構は、204基の土坑、12基の井戸、48条の溝、6基の埋壺・埋桶（トイレ遺構）などであり、その大半が江戸時代のものであると考えられ、一部に中世あるいは明治時代初期のものが含まれている。

土坑の大半は建物や欄等の柱穴と考えられる小規模なものが多いが、炭化材や大量の瓦を廃棄した土坑などもある。なお、近世の武家屋敷の主たる建物と考えられる礎石建物の痕跡は確認できなかったが、その原因は明治期以降の耕作地化などで撤去されたためと考えられる。

溝の大半は東西あるいは南北方向に延びるものであり、甲府城下町の街路区画の方向にはほぼ合致する。よって、これらは屋敷地の境界や屋敷内での土地区画に関わるものであった可能性が高いと考えられる。

井戸は江戸時代～明治時代初期まで綿綿と造られ続けていたことが判明した。井戸の造り方は地山層を掘り込んだだけのもの、木製桶を複数段積み重ねるように埋設したもの、井戸の内面に石垣状に石積みを施すものなど多種多様な技法が確認されている。これら以外にも、トイレ遺構の可能性の高い埋桶や埋壺なども検出された。

出土した遺物（陶磁器類・瓦・木製品など）の総数はコンテナ箱（縦40cm、横30cm、深さ15cm）に換算して約150箱である。出土遺物の大半は江戸時代のものであり、屋敷地に居住した武家が遺したものと考えられる。量的には18世紀後半から19世紀初頭のものが最も多く、17世紀末から18世紀前半のものは少ない状況である。また、明治36年の甲府停車場開業に伴う大規模な埋め立て工事以前の明治時代初期の陶磁器・ガラス製品なども比較的まとまって出土している。出土遺物には、陶磁器（碗、皿、湯飲み、瓶、徳利、猪口、鉢など）・土器（皿、鍋、コンロ、焙烙など）・土製品（人形、鳩笛、箱庭道具、ミニチュア品など）・木製品（碗・樽・桶・下駄・曲物・建物部材など）・金属器（銭・簪・キセル・火打金など）などがあり、武家の日常生活を示す資料が多く含まれている。

今回の発掘調査では、今後の甲府城下町研究に資するところ大となる江戸時代の武家屋敷の構造およびそこに暮らした武家の日常生活を探る上で欠くことのできない資料を得ることができた。



甲府城下町遺跡全体図 (1/200)



全景 (北西→)



調査風景 (東→)

11. 甲府城跡〔県指定史跡〕

所在地 甲府市丸の内1丁目地内
 事業名 舞鶴城公園整備事業
 調査期間 継続中
 調査面積 約700㎡
 担当者 出月洋文・宮里学・宮久保真紀・楠岡美季江

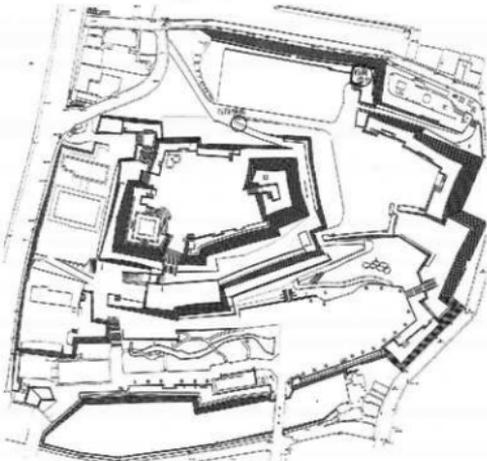
2002年度で調査13年目を迎えた甲府城跡では、昨年度から引き続き稲荷櫓（展望舎）復元に伴う稲荷櫓台石垣改修工事を実施した。調査は2001年7月から解体が始まり2002年1月に完了、同月から改修を開始し、2002年6月に完了した。

改修工事の結果、解体した旧石材数はA・B面（東・北面）の合計で1025石、C・D・E面を含めると1105石となった。その内、旧石材再利用率は470石の45.8%、新補石材利用率は538石の52.5%、調整石材が17石の1.7%となった。改修後は櫓台全体を覆屋で囲み、2003年中の完成目標で櫓の建設をおこなっている。

また、園路整備工において立会調査を実施してきた中で、稲荷曲輪内（本丸櫓下周辺）において石段が検出され発掘調査をおこなった。植栽や明治時代以降の改変で積み直しや損傷（抜け落ち）がみられ全貌は確認できなかったが、15～16段の石段であったと思われる。石材の大きさは30×30～70（cm）のものが主に石段として加工使用され、その間に拳大の礫が埋められている。絵図（江戸中期以降のもの）にも記載されておりその存在が裏付けられた。出土遺物としては瓦が土嚢袋5つであったが、その他に漆喰が確認された。発掘調査完了後は養生の上、そのまま埋設保存とした。

甲府城跡整備事業の一環として、広く県民の方々に事業内容の理解を得るため、11月20日の県民の日に峡中地域振興局建設部・施工者の協力のもと稲荷櫓（展望舎）建設現場説明会を開催した。櫓の土壁構造説明や手斧の実演、小舞竹割り・小舞縄巻きの体験学習、覆屋の内部にての櫓説明・櫓に使用する鯉瓦の説明を実施し、多くの人々が訪れた。

さらに、現場見学会を各市町村教育委員会をはじめ多くの関係機関を対象におこない、その他、建設部発行の舞鶴城公園パンフレット作成の協力もおこなった。



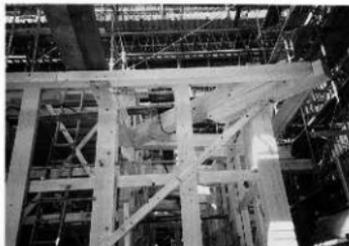
発掘調査位置図



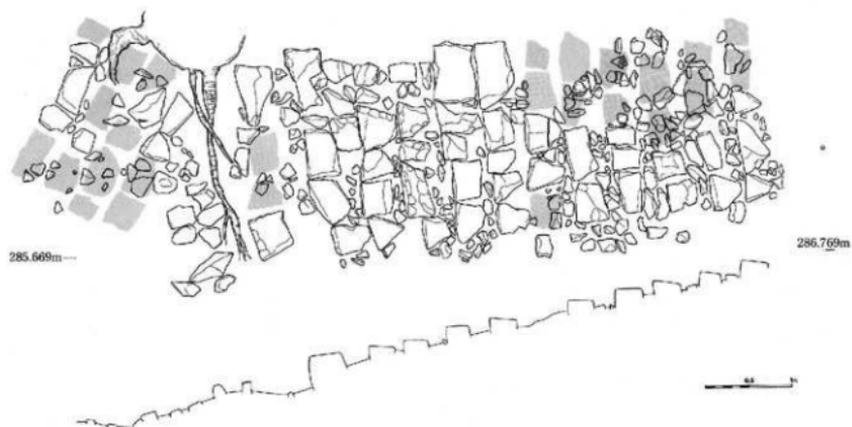
甲府城跡 位置図



改修後のA・B面全景



櫓建設の様子



石段全体図・エレベーション図 (— 石段推定図)



石段全景



調査風景



見学会での手斧 実演の様子



小舞縄巻き体験の様子

12. 八ヶ岳東南麓遺跡群ほか遺跡分布調査

12-1. 北杜高校内弓道場・投球練習場建設工事に伴う試掘調査

所在地 北巨摩郡長坂町渋沢1007ほか（北杜高校地内）
遺跡名 原町農業高校前遺跡
調査期間 ①弓道場建設予定地 2002年4月19日
②投球練習場建設予定地 2002年6月17日
調査面積 ①約140㎡②約300㎡
担当者 保坂康夫・田口明子・正木季洋

重複するところがあるので本調査（原町農業高校前遺跡）を参照。



試掘調査 位置図

12-2. 山梨県立博物館（仮称）建設事業に伴う試掘調査

所在地 御坂町成田地内
遺跡名 地耕免遺跡
調査期間 2002年5月13日～6月27日、12月2日、2003年1月14日
対象面積 63,000㎡
担当者 長沢宏昌・大柴鉄哉・浅川一郎・田口明子・小林孝子

山梨県立博物館（仮称）建設工事に先だって2002年5月13日より、工事着工が予定されている周辺部全域にわたって試掘調査を実施した。試掘は1m×20mのトレンチを約5m間隔で任意に設定し掘り下げを行った。1992年に隣接する地耕免遺跡を発掘調査したため、当初その延長と考え試掘を開始した。最終的にトレンチの数は全部で141本になった。その結果、地耕免遺跡は対象地域には延びていないことがわかり、新たに當代遺跡・大ネギ遺跡が発見された。

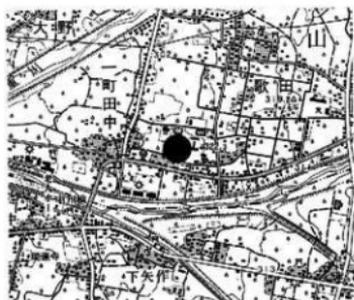


試掘調査 位置図

12-3. 日川高校仮設校舎建設工事に伴う試掘調査

所在地 山梨市一町田中1062（県立日川高校地内）
遺跡名 日川高校校庭遺跡
調査期間 2002年5月13日
調査面積 900㎡
担当者 保坂康夫・正木季洋

仮設校舎建設予定範囲内に1m×2mの範囲でトレンチを11本設定し、重機で工事掘削深度となる70cmまで段階的に掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。調査の結果グラウンド整備による人為的盛土層の下に、礫をほとんど含まない自然堆積の砂層が堆積していた。自然堆積層は2層に分かれ、上層は灰黄褐色の砂層が堆積する。下層は黒褐色の砂層であり、河川氾濫によって堆積した砂層が木の根などによって酸化し、土壌化したものであると考えられる。遺構・遺物は確認されなかった。



試掘調査 位置図

12-4. 新環状・西関東道路建設事業に伴う試掘調査

所在地 南アルプス市(旧若草町) 寺部地内
遺跡名 寺部村附第6遺跡
調査期間 2002年5月16日～5月17日
調査面積 約115.2㎡(800㎡)
担当者 保坂康夫・正木季洋

調査区内に幅約1.2m、長さ約10～15mのトレンチを10本設定し、重機により段階的に掘り下げ、遺構・遺物の確認を行った。調査区の東側は表土である耕作土の下は河川堆積による砂礫層になっており、遺構・遺物は確認されなかった。調査区の西側は表土の盛り土層以下耕作土、遺物包含層、河川堆積による砂礫層となっている。遺構は平安時代の住居跡1軒、土坑3基、溝状遺構3条、中世の住居跡1軒が土器を伴って確認された。



試掘調査 位置図

12-5. あげぼの医療福祉センター再整備建設工事に伴う試掘調査

所在地 荏崎市旭町上条南割字外御勅使3294外
遺跡名 御勅使遺跡
調査期間 2002年6月10日～6月11日
調査面積 185㎡(66,000㎡)
担当者 小林 広和・猪股 一弘・一瀬一浩

試掘位置は、御勅使川北岸の河川敷きであり、密集した松林の中に位置している。この松林の間をぬった形でトレンチ6本を設定し、重機による段階的な掘り下げを行った後、各段階で職員による観察及び記録による遺構・遺物の有無の確認調査を行った。

結果、トレンチの土層確認では、水成の並行堆積が認められた。したがって遺構は検出されなかった。また、遺物においても一切確認されなかった。



試掘調査 位置図

12-6. 甲府地方裁判所改築に伴う試掘調査

所在地 甲府市中央1-10-7
遺跡名 甲府城下町遺跡
調査期間 2002年6月25日～6月26日
調査面積 36㎡(5,631.66㎡)
担当者 三森鉄治・網倉邦生

地下埋設物の関係から庁舎より北西側に、3m×6mのトレンチを2ヶ所設定した。重機で舗装を除去した後、人力による掘り下げと重機による深掘りを行った。

調査の結果、平和通りに近い1トレンチにおいて、地表下約40cmで明治時代、約70cmで江戸時代の遺構面が確認された。江戸時代の遺構面からは配石状遺構や石列が検出され、18世紀末から幕末までの陶磁器などが出土した。東側の2トレンチからは、遺構・遺物は確認されなかった。



試掘調査 位置図

12-7. 新環状・西関東道路建設に伴う試掘調査

所在地 東山梨郡春日居町下岩下39外
遺跡名 中川田遺跡
調査期間 2002年8月8日～8月9日
調査面積 269㎡ (4000㎡)
担当者 小林 稔・村石真澄

中川田遺跡内の東部に該当するため、9本のトレンチを設定した。現地表下約50cmで粗砂や細砂互層からなる洪水堆積層、地表下約1mから2.5mで巨円礫混じり暗青灰粗砂に達し、平等川により形成された土地であることが判明した。包含層らしき黒褐色砂質シルト層が認められたが、炭化粒や焼土粒を含まず、遺構も確認できなかった。遺物は土師器細片・縄文時代中期の土器底部細片・摩滅した土師器細片各1点、近代の染付磁器4点が出土したのみである。試掘地は中川田遺跡の範囲内ではあるが、河川作用が卓越しているため、遺構は存在しないと判断した。



試掘調査 位置図

12-8. 都留警察署職員待機宿舎建設事業に伴う試掘調査

所在地 都留市古川渡280
遺跡名 都留警察署職員待機宿舎遺跡
調査期間 2002年9月10日
調査面積 139.2㎡ (2145㎡)
担当者 斉藤 伸・吉岡弘樹

調査対象地は桂川によって形成された河岸段丘上にあり、現在の国道139号に添って猿橋溶岩流や十日市場溶岩流などが流下しているためか、遺跡の希薄な地域である。調査は宿舎・物置・給水ポンプ室の建設予定箇所を中心に大小6本のトレンチを油圧ジャベルによって掘削した。その結果、全体に表上下に粘性・しまりが弱い黒褐色土層と、粘性・しまり共にやや弱く赤色スコリアを多く混入する明茶褐色土層が確認され、その下に猿橋溶岩流あるいは十日市場溶岩流と推される溶岩層が検出された。なお、遺構・遺物の検出は皆無であった。

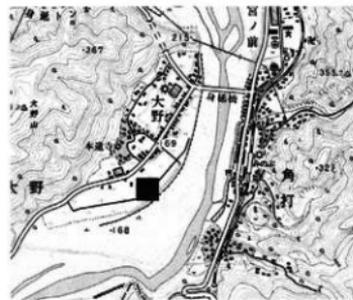


試掘調査 位置図

12-9. 大野築堤護岸工事に伴う試掘調査 (1次)

所在地 南巨摩郡身延町大野地先 (大野築堤護岸工事地区)
遺跡名 大野堤防遺跡
調査期間 2002年9月24日～9月30日
調査面積 750㎡ (13,000㎡)
担当者 保坂康夫、大柴鉄哉

大野堤防遺跡の川表側に、堤防遺跡に平行して一定幅の地割りがあり、古い堤防遺跡や牛・枠といった治水施設が存在する可能性があるため、隣接した区域に旧堤防に直交した長さ10～15m、幅2m、深さ1.5mの調査溝を16本設定しその有無を調査



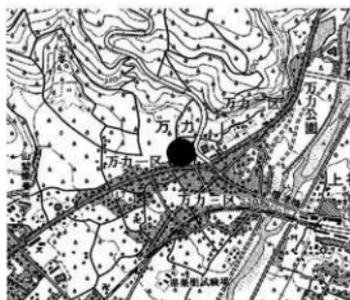
試掘調査 位置図

した。江戸時代後期の歴史・地理書「甲斐国志」によると大野と対岸の角打との間に渡船が記載されており、その基地である渡し場の遺構が存在する可能性があるため、河川の流れ方向に平行した長さ15～40m、幅1m、深さ1mの調査溝を22本設定しその有無を確認した。その結果、堤防や牛・杵など渡し場に関するの構造物は確認されなかったが、調査地域の南北両端に近接してある道について、古くは棧橋として利用されていたということである。地割り内の地層は細砂で構成されており、川表側境界部から直径20～5cmの礫を主体とする礫層の堆積が見られ、明瞭な境界線が観察された。地元の方2名から聞き取りしたところ、その地割りは戦前には篠竹の林で、戦後、食料増産のために耕地化したという。堤防前面に竹林を設定するのは甲州流治水の特徴のひとつとされる。おそらく、洪水時に竹林の中に侵入した洪水流が細砂をもたらし、竹林で流速が減退することと竹林の籬のような効果で、洪水本流と竹林の境界部に急激に大型礫が堆積したものと推定される。また、富士川の流れ方向に平行する調査溝では、直径30～10cmほどの大型礫を主体とする礫層が耕作土直下から発達していた。非常に乾燥した地層であり、木製の構造物は洪水流で失われ、かろうじて残ったとしても乾燥によって消失した可能性が高い。

12-10. 新環状・西関東道路建設に伴う試掘調査

所在地 山梨市万力1015番地ほか
 遺跡名 足原田遺跡
 調査期間 2002年10月3日～10月4日
 調査面積 510㎡ (4,800㎡)
 担当者 小林孝子・小林弘典

甲府盆地の北東に連なる兜山や棚山等の山麓に位置する。道路に沿うように東西に長い12本のトレンチを設定し、重機で段階的に掘り下げ、各段階で遺物・遺構の有無を確認した。第1号トレンチや第3号トレンチでは表土から30cm前後掘り下げた地点で包含層（黒色土で30cm前後堆積）が確認され、そこから古墳時代前期の甕破片等がまとまって出土した。また調査区東側の11号・12号トレンチでは表土下70cm～1mで砂礫が厚く堆積し、遺物の出土は見られなかった。



試掘調査 位置図

12-11. 西関東連絡道路建設事業に伴う試掘調査

所在地 東山梨郡春日居町下岩下地下内
 遺跡名 横町遺跡
 調査期間 2002年10月22日～10月23日
 調査面積 288.1㎡ (3183㎡)
 担当者 斉藤 伸・吉岡弘樹

調査対象地の北側部分においては平等川を扶んだ対岸に1999年度に発掘調査された横町遺跡が対峙している位置にある。このため、当初より遺跡の発見が目まされた箇所であった。土層の堆積は基本的に粘質土と砂質土の互層となっている。

さらに隣接して流れる平等川の旧河道とみられる砂礫層が検出された。南側地区においては表土層下に、比較的安定した粘質土の堆積が観察でき、さらに1～1.2mの深度に砂礫層が堆積していた。なお、遺構・遺物の検出はなかった。これらの結果からほぼ全てのトレンチで観察された砂礫層については、笛吹川の旧本流とされる平等川の影響を受けた土層であろう推測される。



試掘調査 位置図

12-12. 新環状道路建設事業に伴う試掘調査

所在地 中巨摩郡田富町布施地内ほか
遺跡名 小井川遺跡
調査期間 2002年10月22日～11月7日
調査面積 約1,300㎡ (約15,300㎡)
担当者 田口明子・正木季洋

調査区の東側は南北に条里型地割りが残る条里推定地域に位置していることから、東西方向にトレンチを41本設定し、重機により段階的に掘り下げ、遺構・遺物の確認を行った。調査区の西側の微高地となる部分においては約1mの盛土の下で中・近世の土器片・陶磁器片・キセルなどを伴う断面形が「V」字状の溝状遺構を検出したほか、木製桶が埋設されていた。甲府一市川大門線の東側に面した調査区においては、調査区の東側にある道路が堤防跡であることが指摘されており、調査の結果、木杭を伴う堤防跡が確認された他、近世以降の溝状遺構、生活面が確認された。甲府一市川大門線西側の調査区においては2条の溝状遺構が確認され、近世の土器、陶磁器が出土した。



試掘調査 位置図

12-13. 新環状道路建設事業に伴う試掘調査

所在地 中巨摩郡玉穂町成島地内
遺跡名 中田遺跡
調査期間 2002年11月11日～11月19日
調査面積 約910㎡ (約10,600㎡)
担当者 田口明子・正木季洋

東西方向に延びる調査区に沿って17本のトレンチを設定し、重機により段階的に掘り下げ、遺構・遺物の確認を行った。土層は最上層の水田耕作土の下は砂層・暗褐色粘質層となっている。暗褐色粘質層からは水生植物の根・茎が残り、現水田以前は湿地であったことが窺える。遺物は水田耕作土中から摩耗が著しい土師器片が1点出土したほか、暗褐色粘質土層中より木片・木製品が出土した。遺構の検出は皆無である。



試掘調査 位置図

12-14. 国道137号河口2期バイパス建設に伴う試掘調査

所在地 南都留郡河口湖町河口字井坪521-1番地外
遺跡名 滝沢遺跡、井坪遺跡、炭焼遺跡、塚越遺跡
調査期間 2002年11月19日～11月28日
調査面積 9,200㎡
担当者 出月洋文・窪田昌彦

延べ延長610mほどの路線内に幅約1.5～2m、長さ6～23m、深さ1～2mのトレンチを31本設定し、重機で掘り下げた後、人力での精査によって遺構・遺物の有無を確認した。その結果、平安時代の集落跡、田畑跡や、それに伴う遺物を確認した。また、富士山起源と見られる火山灰層と周辺の河川の上流からの数次に及ぶ砂礫の堆積が顕著に見られ、この地域が噴火による降灰と水害とにさいなまれてきた歴史を持つ土地であることが明らかになった。



試掘調査 位置図

12-15. 埴硝藏遺跡公園整備に伴う試掘調査

所在地 南巨摩郡身延町下山（富士クラフトパーク内）

遺跡名 埴硝藏遺跡

調査期間 2002年12月10日～12月18日

調査面積 70m²（400m²）

担当者 保坂康夫・小林弘典

埴硝藏遺跡は身延町の富士川クラフトパーク整備に伴い埋設保存されていた。今回、史跡としての整備のため、埋設状況の確認と遺跡の性格や時期決定などのための資料整備を目的として、試掘調査を実施した。

調査は埋設のための埋め土を重機により一部除去し、埋設状況の確認を行なった。埴硝藏遺跡南半部分について、人力によるトレンチ調査を実施した。

調査の結果、建物の礎石や掘立て建物の小穴などは検出できなかったが、上面平坦面が幅12mであることを確認し、東辺南北方向14m、西辺南北方向7mの南半部分を確認した。上面の東側2/3ほどは、硬い岩盤を削り出した平坦な造成面であった。岩盤は、大半の部分が径30～60cmの大型礫を伴うクサレ礫層で、南端部に径3～1cmの小門礫と粗砂が硬化した砂礫層であった。両者とも非常に硬く、ツルハシでも容易に掘削できない。前者岩盤中の大型礫について、当初の十字トレンチ設定段階で建物礎石の可能性があると考え、大型礫の位置に直行する2本のトレンチを新たに設定したが、配列性は看取できなかった。

東辺部に段構造を確認した。東辺部に幅1～1.5m、高さ15～30cmほどの犬走り状の小段を確認した。段の斜面側縁部に大型礫の石列を確認した。段の斜面側縁部に径50～70cmの大型礫を一列に配置していた。礫は深く埋設されており、奥行などは大半が不明であるが、小口積みと横口積みが混在すると思われる。段の面および大型礫石列背後は中型礫を盛り上げて覆われていた。大型礫の石列の背後を径10～20cmの中型礫で厚さ30cm、幅1mほどに盛り上げて封じている。これらの構造は、上部構造物の基礎部分である可能性がある。

東側斜面および大型礫石列・中型礫盛り石列周囲は細粒土で覆われていた。大型礫や中型礫の盛り上げりの周囲は、白褐色のシルト質土で充填されている。同様な土層は東側斜面全体で確認できたが、その深度は確認できなかった。上面の平坦面がクサレ礫層を削りだしたものであるため、東面の岩盤の削りだし面を白褐色のシルト質土を貼りつけて覆っているものと理解できる。こうした、細粒土は風性堆積によっても形成されると思われるが、急な斜面と縁辺部のみに分布する状況から、人為的なものと判断した。この細粒土は上部構造の部材であった可能性も考えられる。すなわち、土壁ないしは板壁に挟まれた土壁構造であったとも考えられる。

西側部分は中型礫を盛って造成されていた。西側部分は幅3.5mほどが、径10～20cmを中心とした中型礫が分布し、礫間に隙間がみられ、ゆるい構造である。上面は東側斜面と同様な白褐色のシルト質土が覆っていた。さらに、西側縁部は径30～50cmの礫が配置されていた。

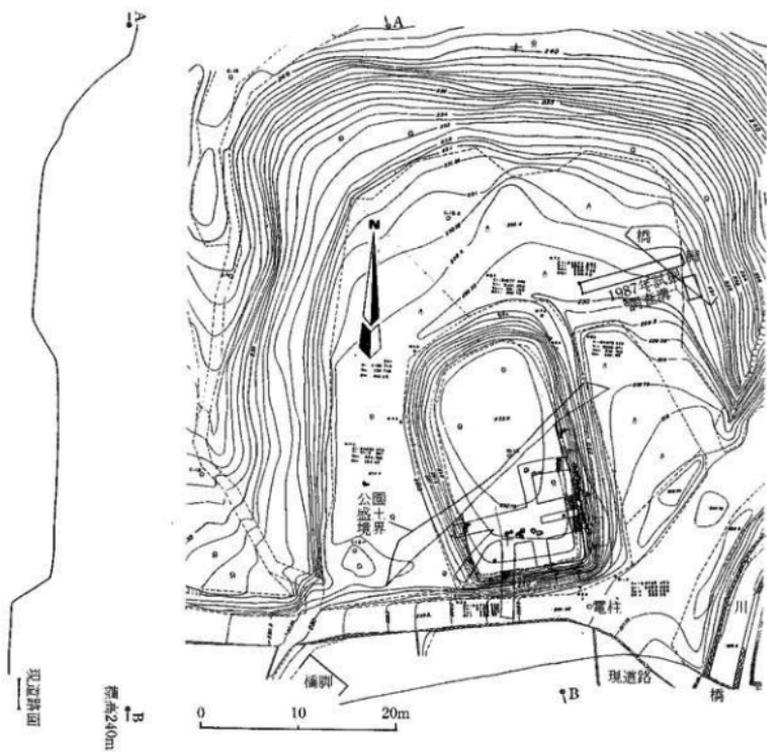
南縁の一部に大型礫の石積みを確認した。南縁西側に設定したトレンチで、径30～50cmの大型礫を2段に積んだ状況を確認した。さらに下に石積みが続くと思われる。

遺物は、表土上面から江戸末頃と思われる染め付け磁器小片3点が得られたものの、遺構の時期を示す遺物については確認できなかった。遺構上面を30cmほどの土層が覆っており、周囲から孤立して土層の供給が風性堆積物のみという場所であり、30cmという土層の厚さは、この遺構が放棄されてから相当の年数の経過を物語る。染め付けの出土から覆土の表層で江戸末とすると、中世末頃である穴山氏創建伝承説も否定できないものと思われる。

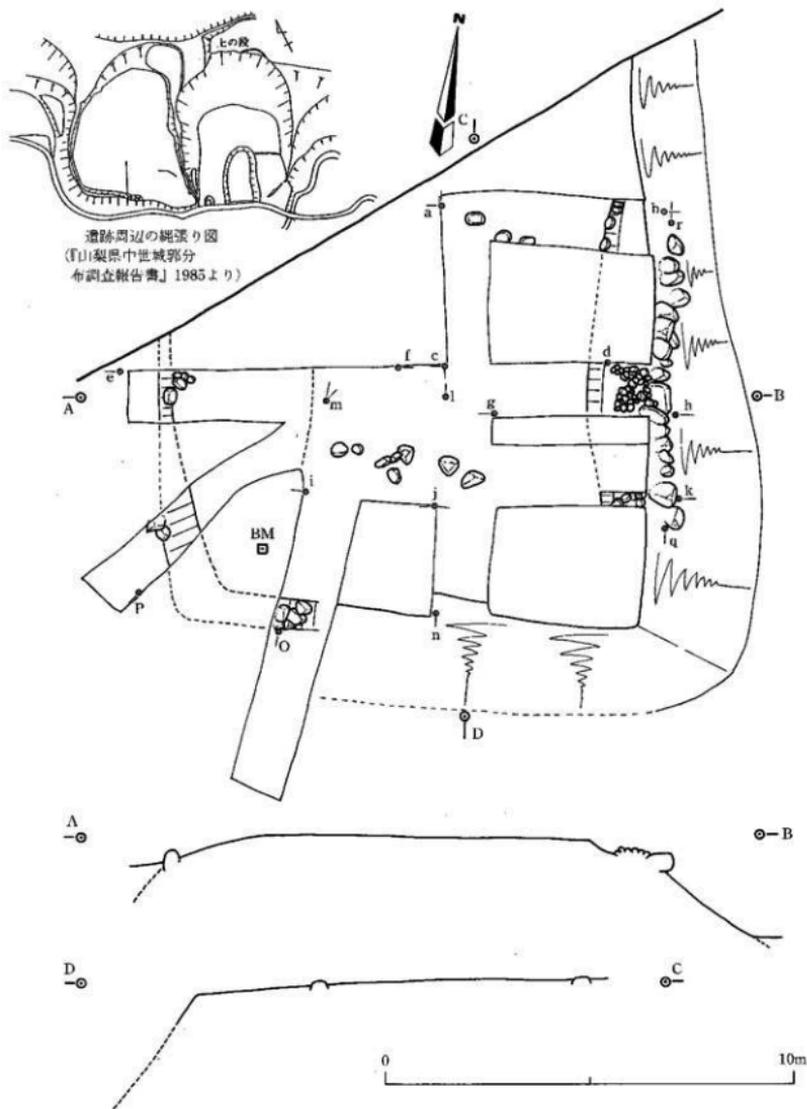
埴硝藏遺跡は今回調査した部分を含み、さらに大きな広がりを持つと思われる。（第2図上）。



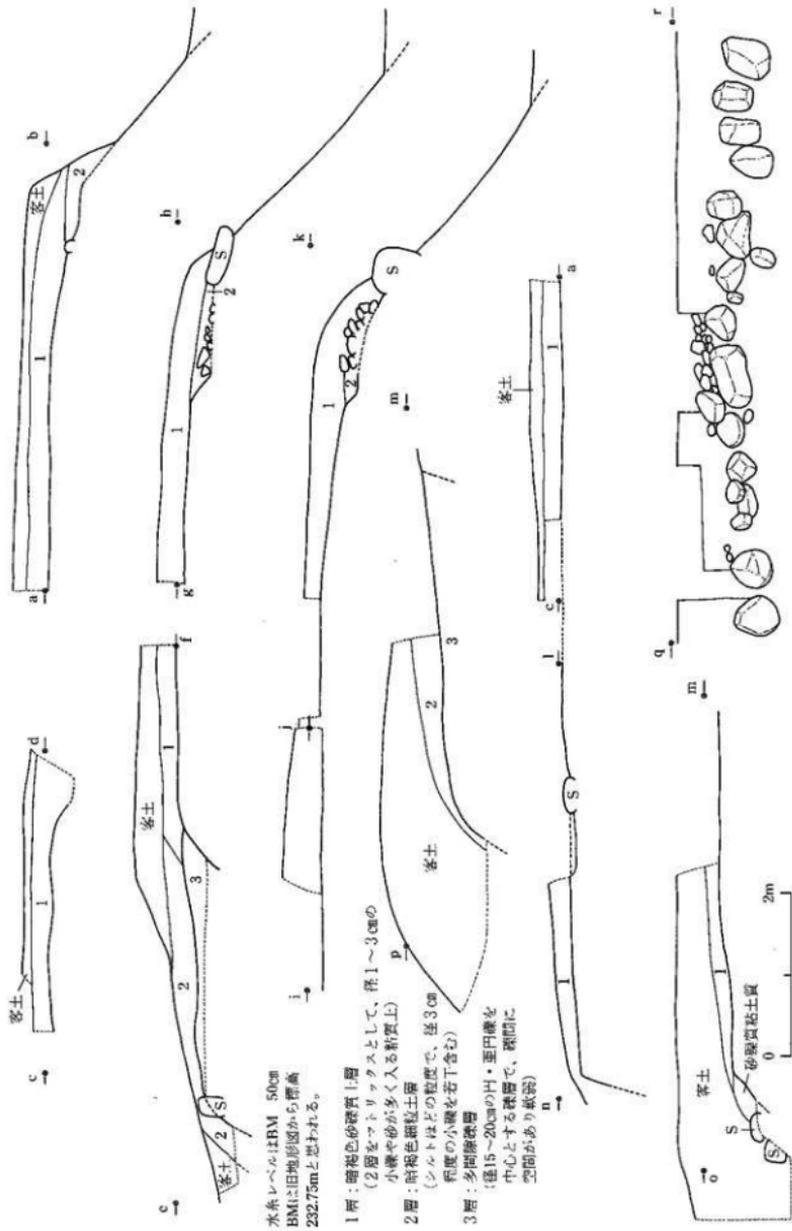
埴硝藏遺跡 位置図



第1図 焰硝蔵遺跡旧地形と試掘溝配置状況 (1/500)
 (旧地形図は、「ハヶ岳東南麓他遺跡分布調査報告書」1987より)



第2図 焰硝蔵遺跡南半部調査状況 (1/120)



第3図 埴輪窯跡土層断面図 (1/60)



船納蔵遺跡遠景



調査区東半部



大型礫石列遠景



大型礫石列調査状況



大型礫石列背後の中型礫盛り石列



調査区中央部造成面



南西部石積み



西半部の中型礫による造成部分

12-16. 大野築堤護岸工事に伴う試掘調査（2次）

所在地 南巨摩郡身延町大野839番地 他先
遺跡名 大野堤防遺跡
作業期間 2003年1月21日～1月22日
調査面積 約284㎡（4,100㎡）
担当者 齊藤 伸・吉岡弘樹

対象地には、日蓮宗大野山本遠寺参道に対応する船着き場棧橋と感じさせる石積みが見られると同時にこれとほぼ直交して堤防状の高まりが2箇所確認された。調査はこれらの遺構想定箇所に対して直交する方向に重機を用いてトレンチを設定し掘り下げた後に精査を行い、土層および堤防をはじめとする遺構や遺物の有無を確認した。その結果、棧橋状の石積みは明治期以降の時期が比定できる谷積み技法で構築されており、棧橋の可能性は極めて薄いことが判明した。当該地が堤防遺跡であることの証左となる調査の成果はほとんど確認できなかった。



試掘調査 位置図

12-17. 山梨県酪農試験場内堆肥盤建設に伴う試掘調査

所在地 北巨摩郡小淵沢町上笹尾3366番地
(山梨県酪農試験場内)
遺跡名 西城仙遺跡
調査期間 2003年2月17日
調査面積 66㎡（600㎡）
担当者 坂本美夫・小林弘典

調査区は八ヶ岳南麓に位置し、中央自動車道北側に位置する牧場のほぼ中央の部分である。調査区内には杉の木が数本あったため、これらの間を縫うように東西方向に3本のトレンチを設定し、重機で段階的に掘り下げ、各段階で遺構・遺物の有無を確認した。各トレンチとも、褐色土・黒色土を経て礫層・ハードローム層が認められた。これらの各層ともに、遺構・遺物は確認できなかった。



試掘調査 位置図

13-1. 県庁構内改良工事に伴う立ち会い調査

所在地 甲府市丸ノ内1-6-1 (山梨県庁構内)
遺跡名 甲府城跡
調査期間 2002年10月25日～11月8日、11月20日
調査面積 78㎡
担当者 保坂康夫



立ち会い調査 位置図

県庁構内の給水管改修工事および光ファイバー配管工事に伴い、土日を含み立ち会い調査を実施した。幅60cm、深さ1mほどの掘削であり、大半が近代以降の廃棄物を伴う盛り土範囲内の掘削であったが、一部で甲府城跡に伴う遺構を確認した。11月2日(土)に行なったバルブボックス設置のための幅2.3m、長さ5m、深さ1mの掘削部分の東部で検出した。横口を四角に整形した大型礫を、整形した平坦な横口をそろえて南北方向に配列したものである。礫の大きさは面をそろえた方向で30～60cm、奥行30～40cm、高さ40～50cmである。奥行部分に裏込めの礫が若干みられ、礫の面を立てるための根石も確認できる。確認した大型礫は5個で、古い水道間で1個が排除されていたので、本来は6個であったと思われる。掘削部北面の土層断面を観察したところ、地表面のアスファルト面から下15cmのアスファルト砂利層、厚さ15cmの粘土質土層の下に石列に関する土層が残存した。大型礫の背後に拳大前後の礫が入る暗赤褐色粘土質土層があり、大型礫の掘り形を埋める裏込め層と思われる。裏込め層を覆い厚さ25cmで直径5cm程度の風化軟質化したクサレ礫を多量に含む暗褐色粘土質クサレ礫層と、その下位の厚さ10cmの白色粒子を多量に含む粘土質土層が存在する。両者は厚さが一定しており、裏込め層から西側へ広がっていた。おそらく、土塁を構成する土層と思われる。暗褐色粘土質クサレ礫層中には平瓦が見られ、甲府城跡創建時の土塁ではないことを示している。暗褐色粘土質クサレ礫層の東端面は東方向に急角度で傾斜しており、その前面には小礫を含む明黒褐色粘土質土層が乗り、大型礫を覆っている。その前面は緩傾斜面である。さらにその上面と大型礫の前面の溝内を充填して砂を若干含む黒色粘土質土層が見られる。大型礫の掘り形は地山である褐色クサレ礫層に掘り込まれている。

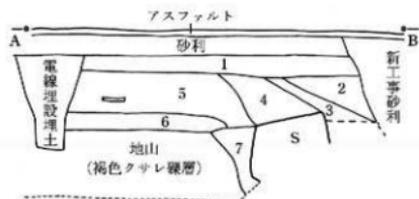
石列前面は溝と思われ、大型礫は溝底面に据え置かれているようで、溝の深さは大型礫の上面から40～50cmほどであろう。溝の東半分は最近の工事で攪乱されており、砕石層が石列東端から30～60cmの部分に見られる。こうした石列遺構は2001年にも調査されており、その北側延長部分を今回確認したのもと思われる。2001年調査では東西2列の石列で幅1mの溝が形成されており、今回の部分も2列の石列の東側部分が除去されているものと考えられる。こうした状況から、これらの石列は、甲府城跡楽屋曲西側の土塁裾部を区切る溝を構成する石列と考えられる。



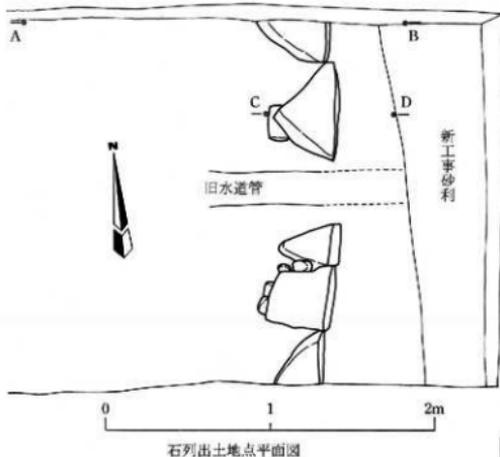
石列出土状況 (北から)



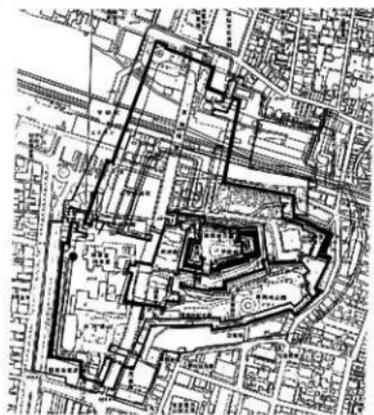
石列と土層断面 (南東から)



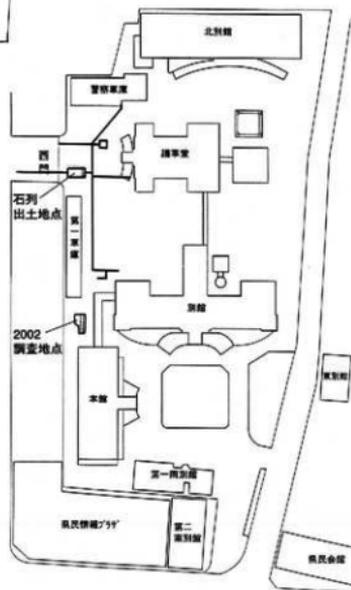
- 1層：暗褐色粘土質土層
- 2層：黒褐色粘土質土層
- 3層：黒色粘土質土層
(溝内を充填、瓦片を含み礫が少ない)
- 4層：明暗褐色粘土質土層 (礫が少ない)
- 5層：暗褐色粘土質クサレ礫層 (径5cm程度のクサレ礫を多量に含み瓦が入る)
- 6層：白褐色粘土質土層 (白色粒子も多量に含む)
- 7層：暗赤褐色粘土質土層 (拳大の礫を多く含む)



石列出土地点平面図



甲府城縄張り」と調査地点 (黒丸)

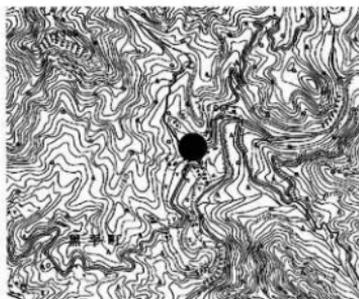


県庁構内と調査地点 (太線が立会調査地点)

13-2. 砂防堰堤建設工事に伴う立ち会い調査

所在地 甲府市黒平町黒平地内
遺跡名 黒平遺跡
調査期間 2002年5月14日
調査面積 10^m (10^m)
担当者 保坂康夫・正木季洋

工事予定区のほとんどが尾の沢川に面した斜面部であり、遺物・遺構の存在が見込まれないことから、工事用道路建設で掘削される比較的平坦な部分を重機で掘り下げ、遺構・遺物の有無を確認した。調査の結果、河川堆積による大型礫を多量に含む河床礫層が堆積しており、遺構・遺物は確認されなかった。



立ち会い調査 位置図

13-3. 西関東道路工用仮橋建設工事に伴う立ち会い調査

所在地 東山梨郡春日居町下岩下
調査期間 2002年4月15日
調査面積 7.75^m
担当者 保坂康夫・正木季洋
結果 遺構・遺物なし

13-4. 整理用プレハブ設置工事（基礎）に伴う立ち会い調査

所在地 東八代郡中道町下曾根923番地（山梨県立考古博物館構内）
遺跡名 石清水遺跡
調査期間 2002年6月17日
担当者 坂本美夫・森原明廣
結果 遺構・遺物なし

13-5. 甲府中央郵便局増築工事に伴う立ち会い調査

所在地 甲府市太田町6-10
調査期間 2002年7月2日、8月26日
担当者 小林稔・村石眞澄
結果 土師器・灰釉陶器の細片と染付け片が出土

13-6. 甲府駅北口県職員駐車場外周部他改修工事・武田通り拡幅工事に伴う立ち会い調査

所在地 甲府市北口2丁目（県職員駐車場西側）
遺跡名 甲府城下町遺跡
調査期間 2002年12月12日～12月13日
調査面積 15^m (540^m)
担当者 坂本美夫・窪田昌彦・深沢容子・森原明廣
結果 江戸時代後期を中心とした遺構群が残存し、該期の遺物も散布

13-7. 青い鳥老人ホーム建設事業に伴う立ち会い調査

所在地 東山梨郡春日居町小松855-192番
調査期間 2003年1月24日
調査面積 37.5^m
担当者 坂本美夫
結果 遺構・遺物なし

Ⅲ 県内の概況

1. 発掘調査

2002年度に実施された県内の発掘調査件数は、試掘調査を含めて165件となっている。その内訳は、県が29件・市町村が136件である。発掘調査の原因は、河川1件、工場1件、学校6件、住宅54件、区画整理12件、ガス1件、農業関連8件、その他開発26件、宅地造成8件、その他建物18件、道路24件といった緊急調査と、5件の学術調査や3件の遺跡整備があった。

2. 県指定文化財

2002年4月24日に新たに県指定文化財（有形文化財）として以下の物件が指定された。

中道町にある「右左口区有文書及び関連資料一括」、考古資料としては、御坂町の「桂野遺跡出土、大形深鉢土器」、中道町の「稲荷塚古墳出土、銅鏡・象嵌大刀等出土品一括190点」、甲府市の「大坪遺跡出土、刻書土器」、双葉町の「塔之越経塚出土、経筒・銭貨等一括」、史跡としては上野原町の「恋塚一里塚」の6件を県指定にした。

右左口区有文書及び関連資料一括は、右左口区有文書2339点、近代文書128点、青年団関係文書40点からなっている。特に右左口区有文書のうち徳川家康朱印状は、徳川家康が地域に与えた文書であり、その地域を知る上でも貴重な資料である。

桂野遺跡出土の土器については、縄文時代中期を代表する秀作で、胴部前面に施された渦巻文は他に例を見ない。また、各種展示会に出展されたり、美術書、図録などで広く公開されているなど本県を代表する縄文式土器の一つである。

稲荷塚古墳出土遺物等については、出土遺物を副葬する実力者であること、またこの時期の中道地域を掌握した官長層の墓と見られることから、古代甲斐国の政治的動向を考える上で貴重な一括資料である。

大坪遺跡出土の土器については、土器に刻まれた文字が「和名類聚抄」に記載された山梨郡表門郷であること、この地域の地名が「和戸」で古代の表門が転訛したという推定を裏付ける貴重な文字資料である。このように、文献資料と考古資料が一致するきわめて貴重な資料である。

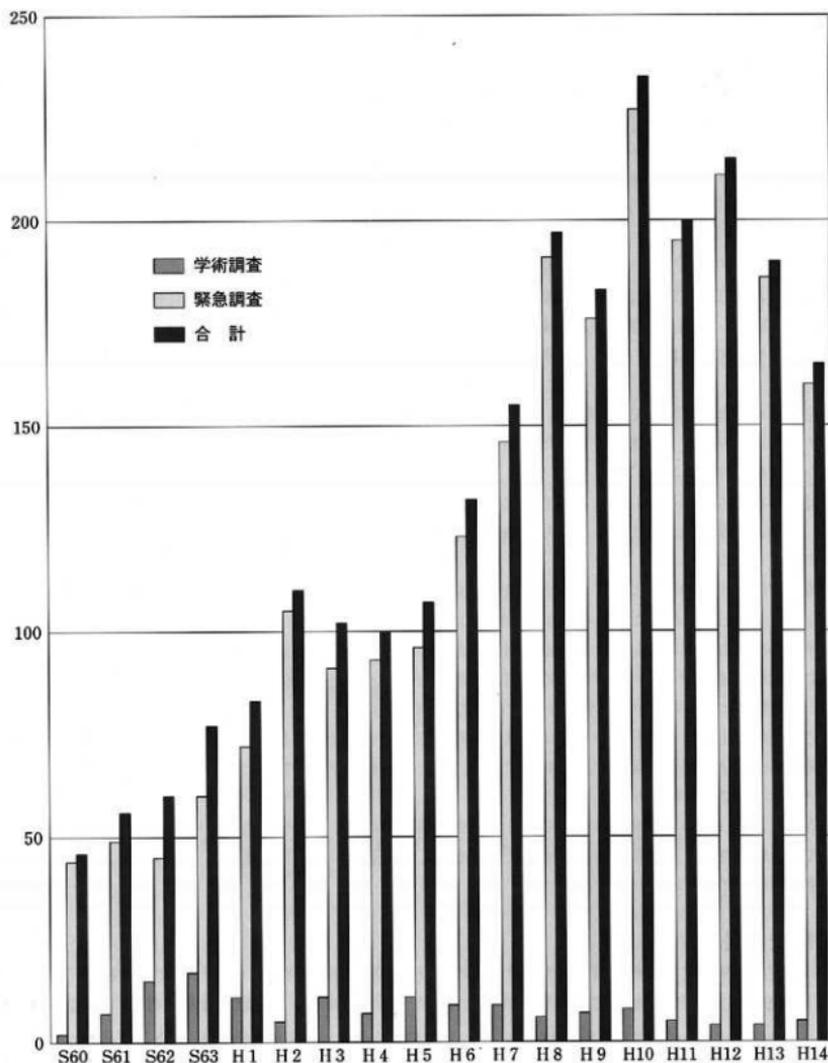
塔之越経塚出土の一括資料については、廻国納経思想を示す一括資料として貴重であり、なかでも六角宝幢形経筒は製作技法に優れ、遺存状態も良好である。また、中世甲斐国の在地における宗教観の一端を読みとることができる重要な資料である。

史跡指定となった恋塚一里塚については、江戸日本橋を起点とする甲州街道に一里毎に築かれた塚で、江戸時代初期に築造され、江戸時代から明治時代中期まで、甲州道中の交通の標識として使われた。また、県内に唯一現存する塚でもある。

3. 調査体制

2002年度末の埋蔵文化財専門職員（埋蔵文化財担当及び担当可能職員）について、県では学術文化財課5名（うち博物館建設室1名）、埋蔵文化財センター33名（うち非常勤嘱託3名、臨時職員1名）、考古博物館2名（外に非常勤嘱託1名）、市町村では、甲府市7名、韭崎市2名（外に非常勤嘱託1名）、大月市2名、都留市2名、御坂町2名、八代町2名、大泉村2名、塩山市、富士吉田市、山梨市、牧丘町、春日居町、勝沼町、石和町、一宮町、境川村、中道町、豊富村、三珠町、増穂町、竜王町、敷島町、玉穂町（非常勤嘱託1名で昭和町と田宮町を兼務）、甲西町、若草町、構形町、白根町、八田村、双葉町、明野村（外に文化財調査員1名）、高根町、須玉町（外に非常勤嘱託1名）、長坂町（外に非常勤嘱託1名）、小淵沢町、白州町、武川村、上野原町に各1名となっており、63市町村のうち37市町村に埋蔵文化財担当者が配置されている。

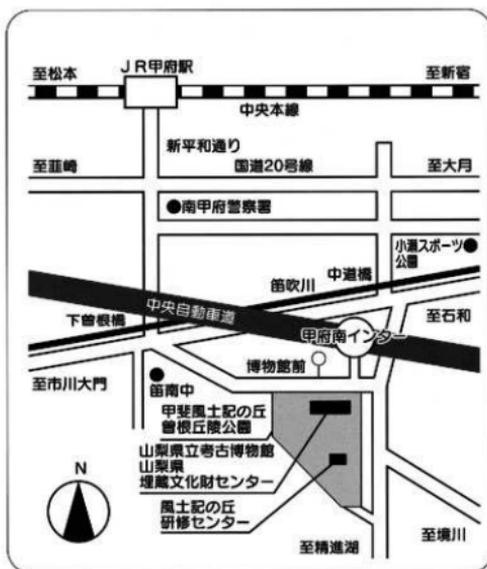
山梨県埋蔵文化財発掘調査件数の推移



2002年度 県内発掘調査一覽表

No.	調査地	所在地	発掘(発)	発掘の種別	遺物の種別	遺物の時代	調査機関	調査期間
1	武田城下町遺跡	甲府市西町1-11	185・1187-2	その他の遺跡(城下町)	中世	個人宅	個人宅	H14.4
2	甲府城跡(北土手)遺跡	甲府市本町1-18	187	その他の遺跡(城下町)	中世・近世	個人宅	個人宅	H14.5
3	甲府城跡(南土手)遺跡	甲府市本町1-18(2)-1	207,24	敷瓦・瓦葺	中世・近世	個人宅	個人宅	H14.5
4	武田城跡(北土手)遺跡	甲府市本町1-18(2)-2	204,85	その他の遺跡(城下町)	中世	個人宅	個人宅	H14.5
5	武田城跡(北土手)遺跡	甲府市本町1-18(2)-5	182,65	その他の遺跡(城下町)	中世	個人宅	個人宅	H14.10
6	清涼寺遺跡	甲府市本町1-18(2)-7	151,84	敷瓦	中世・古墳・奈良・平安	個人宅	個人宅	H14.22
7	7ヶ之内遺跡	甲府市本町1-18(2)-7(一部)	6	古墳	古墳・奈良・平安・近世	古墳	個人宅	H14.24
8	西園遺跡	甲府市西町189-1	2186	敷瓦	古墳	古墳	個人宅	H14.19
9	三山陣遺跡	甲府市西町189-1	1366	敷瓦	古墳	古墳	個人宅	H14.24
10	武田城下町遺跡	甲府市本町1-18(2)-1412	811,64	その他の遺跡(城下町)	平安	個人宅	個人宅	H14.4, 24
11	三ツ池遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	824	敷瓦	中世	個人宅	個人宅	H14.4, 24
12	琴ヶ池遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	1123	敷瓦	中世	個人宅	個人宅	H14.4, 24
13	上杉陣遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	996	敷瓦	中世・近世	個人宅	個人宅	H14.4, 24
14	平田遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	300	敷瓦	中世・平安・近世	個人宅	個人宅	H14.4, 24
15	芳乃池・石巻遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	156	敷瓦	中世・平安・近世	個人宅	個人宅	H14.4, 24
16	甲府城跡(北土手)遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	84,43	敷瓦	中世	個人宅	個人宅	H14.19
17	甲府城跡(北土手)遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	156	敷瓦	中世	個人宅	個人宅	H14.19
18	八上(伝)遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	396	その他の遺跡(不明)	中世・平安	個人宅	個人宅	H14.5, 9
19	八上(伝)遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	200	敷瓦	その他の遺跡(不明)	個人宅	個人宅	H14.5, 31
20	新本川遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	148,83	城下町	個人宅	個人宅	個人宅	H14.5, 13
21	新本川遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	148,83	城下町	個人宅	個人宅	個人宅	H14.5, 13
22	新本川遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	148,83	城下町	個人宅	個人宅	個人宅	H14.5, 13
23	新本川遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	148,83	城下町	個人宅	個人宅	個人宅	H14.5, 13
24	新本川遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	148,83	城下町	個人宅	個人宅	個人宅	H14.5, 13
25	新本川遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	148,83	城下町	個人宅	個人宅	個人宅	H14.5, 13
26	新本川遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	148,83	城下町	個人宅	個人宅	個人宅	H14.5, 13
27	武田城下町遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	25,36	その他の遺跡(不明)	中世	個人宅	個人宅	H14.5, 13
28	武田城下町遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	37,64	その他の遺跡(不明)	中世	個人宅	個人宅	H14.5, 13
29	武田城下町遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	62,5	その他の遺跡(不明)	中世	個人宅	個人宅	H14.5, 13
30	四ツ池遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	41,34	遺構	中世	個人宅	個人宅	H14.5, 13
31	石巻遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	80	敷瓦	中世	個人宅	個人宅	H14.5, 13
32	石巻遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	142,05	敷瓦	中世	個人宅	個人宅	H14.5, 13
33	石巻遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	142,05	敷瓦	中世	個人宅	個人宅	H14.5, 13
34	石巻遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	142,05	敷瓦	中世	個人宅	個人宅	H14.5, 13
35	石巻遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	142,05	敷瓦	中世	個人宅	個人宅	H14.5, 13
36	石巻遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	142,05	敷瓦	中世	個人宅	個人宅	H14.5, 13
37	武田城下町遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	17,15	城下町	中世	個人宅	個人宅	H14.5, 13
38	武田城下町遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	17,15	城下町	中世	個人宅	個人宅	H14.5, 13
39	武田城下町遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	17,15	城下町	中世	個人宅	個人宅	H14.5, 13
40	上院遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	291,06	その他の遺跡(不明)	個人宅	個人宅	個人宅	H14.5, 13
41	町内遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	237,6	不明	その他の遺跡(不明)	個人宅	個人宅	H14.5, 13
42	町内遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	439,51	不明	その他の遺跡(不明)	個人宅	個人宅	H14.5, 13
43	東院遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	800	敷瓦	中世	個人宅	個人宅	H14.5, 13
44	町内遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	362,06	城下町	中世	個人宅	個人宅	H14.5, 13
45	町内遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	362,06	城下町	中世	個人宅	個人宅	H14.5, 13
46	町内遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	362,06	城下町	中世	個人宅	個人宅	H14.5, 13
47	町内遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	362,06	城下町	中世	個人宅	個人宅	H14.5, 13
48	町内遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	362,06	城下町	中世	個人宅	個人宅	H14.5, 13
49	町内遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	362,06	城下町	中世	個人宅	個人宅	H14.5, 13
50	町内遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	362,06	城下町	中世	個人宅	個人宅	H14.5, 13
51	町内遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	362,06	城下町	中世	個人宅	個人宅	H14.5, 13
52	町内遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	362,06	城下町	中世	個人宅	個人宅	H14.5, 13
53	町内遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	362,06	城下町	中世	個人宅	個人宅	H14.5, 13
54	町内遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	362,06	城下町	中世	個人宅	個人宅	H14.5, 13
55	町内遺跡	甲府市本町1-18(2)-248	362,06	城下町	中世	個人宅	個人宅	H14.5, 13

No	遺 跡 名	所在 地	面積(㎡)	建物の概要	遺跡の時代	調査 年度	調査 期間
55	磐城大塚	中野町吉野25丁目28-1	314.94	築石礎	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世	磐城大塚 中野町教育委員会	旧4.7.12 ~ 旧4.7.25
56	式内城下町遺跡	中野町吉野1丁目13番13-6	136.47	城下町	縄文・弥生	磐城大塚 中野町教育委員会	旧4.7.15 ~ 旧4.7.24
57	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸3894-2等	603.17	散石基	縄文・平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.6.27 ~ 旧4.6.27
58	式内城下町遺跡	中野町吉野2丁目22番	8.00	その他(遺跡・城下町)	中世	磐城大塚 中野町教育委員会	旧4.6.27 ~ 旧4.6.27
59	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸434	150.00	築石礎	縄文・奈良・平安・中世	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.7.17 ~ 旧4.12.28
60	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-1	200.00	築石礎	縄文・奈良・平安・中世	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.7.17 ~ 旧4.10.25
61	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-2	183.12	築石礎	縄文・奈良・平安・中世	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.7.25 ~ 旧4.10.25
62	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-3	143.12	築石礎	縄文・奈良・平安・中世	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.7.25 ~ 旧4.10.25
63	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-4	145.00	築石礎	縄文・奈良・平安・中世	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.7.29 ~ 旧4.8.25
64	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-5	600.00	築石礎	縄文	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.7 ~ 旧4.8.25
65	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-6	310.00	その他(遺跡・築石)	縄文・古墳・奈良・平安・中世	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.7 ~ 旧4.8.25
66	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-7	253.83	築石礎	縄文・古墳・奈良・平安・中世	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.7.9 ~ 旧4.8.25
67	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-8	800.00	築石礎	その他(遺跡・築石・土器類)	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.1 ~ 旧4.8.27
68	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-9	285.97	築石礎	その他(遺跡・築石・土器類)	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.12 ~ 旧4.8.12
69	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-10	500.00	築石礎	平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.12 ~ 旧4.8.12
70	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-11	382.60	築石礎	平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.13 ~ 旧4.8.30
71	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-12	100.00	築石礎	平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.12 ~ 旧4.8.30
72	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-13	100.00	築石礎	平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.12 ~ 旧4.8.30
73	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-14	261.83	築石礎	平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.28 ~ 旧4.9.20
74	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-15	300.00	築石礎	平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.28 ~ 旧4.9.20
75	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-16	180.00	築石礎	平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.28 ~ 旧4.9.20
76	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-17	340.32	築石礎	平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.10 ~ 旧4.9.20
77	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-18	238.58	築石礎	平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.10 ~ 旧4.9.20
78	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-19	8.00	その他(遺跡・城下町)	中世	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.9 ~ 旧4.9.20
79	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-20	50.00	その他(遺跡・城下町)	古墳・奈良・平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.9 ~ 旧4.9.20
80	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-21	523.00	築石礎	縄文・平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.7.1 ~ 旧4.8.31
81	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-22	1567.00	築石礎	縄文・平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.27 ~ 旧4.8.27
82	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-23	3.00	築石礎	縄文・平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.12 ~ 旧4.8.12
83	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-24	1900.00	築石礎	縄文・平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.12 ~ 旧4.8.27
84	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-25	2000.00	築石礎	縄文・平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.9 ~ 旧4.9.20
85	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-26	1100.00	築石礎	中世	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.29 ~ 旧4.9.20
86	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-27	67.00	築石礎	縄文・古墳・奈良・平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.29 ~ 旧4.10.7
87	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-28	300.00	築石礎	縄文・平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.29 ~ 旧4.10.7
88	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-29	70.00	築石礎	縄文・平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.29 ~ 旧4.10.7
89	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-30	1198.00	築石礎	縄文・平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.29 ~ 旧4.10.7
90	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-31	100.00	築石礎	平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.27 ~ 旧4.10.27
91	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-32	300.00	築石礎	平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.27 ~ 旧4.10.27
92	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-33	600.00	築石礎	平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.27 ~ 旧4.10.27
93	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-34	300.00	築石礎	平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.27 ~ 旧4.10.27
94	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-35	2005.00	築石礎	縄文・平安・古墳	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.10.8 ~ 旧4.10.25
95	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-36	1186.00	築石礎	縄文・平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.10.8 ~ 旧4.10.25
96	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-37	15300.00	その他(遺跡・築石・土器類)	不明	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.10.21 ~ 旧4.11.8
97	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-38	567.00	その他(遺跡・築石)	古墳・平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.10.22 ~ 旧4.10.24
98	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-39	2488.00	築石礎	縄文・古墳・奈良・平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.10.21 ~ 旧4.10.31
99	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-40	4116.64	築石礎	縄文・平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.10.15 ~ 旧4.10.15
100	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-41	3.00	その他(遺跡・城下町)	中世	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.10.17 ~ 旧4.10.24
101	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-42	234.62	城下町	平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.10.23 ~ 旧4.11.4
102	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-43	300.00	築石礎	平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.10.23 ~ 旧4.11.4
103	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-44	262.72	その他(遺跡・城下町)	平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.10.31 ~ 旧4.11.8
104	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-45	3000.00	築石礎	縄文・平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.10.31 ~ 旧4.11.8
105	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-46	1600.00	築石礎	縄文・平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.10.31 ~ 旧4.11.8
106	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-47	1600.00	築石礎	縄文・平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.10.31 ~ 旧4.11.8
107	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-48	1600.00	築石礎	縄文・平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.10.31 ~ 旧4.11.8
108	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-49	1600.00	築石礎	縄文・平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.10.31 ~ 旧4.11.8
109	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-50	1251.56	築石礎	縄文・平安	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.10.31 ~ 旧4.11.8
110	式内城下町遺跡	北野町大谷村大字石戸464-51	29.00	不明	古墳・古墳・奈良・平安・中世・近世	磐城大塚 大谷村教育委員会	旧4.8.25 ~ 旧4.9.20



- 路線バスご利用
甲府—右左口（中道橋経由）考古学博物館で下車
- 高速バスのご利用（2時間）
新宿西口……甲府南インター下車・徒歩10分

年 報 19

印刷日 平成 15 年 9 月 22 日

発行日 平成 15 年 9 月 30 日

発行所 山梨県埋蔵文化財センター
山梨県東八代郡中道町下曾根923
TEL 055-266-3881・055-266-3016
FAX 055-266-3882

印刷所 株式会社 少國民社
山梨県甲府市丸の内2-7-27
TEL 055-226-2125

